

平成26年7月相模原市教育委員会定例会

日 時 平成26年7月24日(木曜日)午前10時00分から午後4時45分まで

場 所 相模原市役所 第3委員会室

日 程

1. 開 会

2. 会議録署名委員の決定

3. 議 事

日程第 1 (議案第54号) 相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択について(学校教育部)

日程第 2 (議案第55号) 相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択について(学校教育部)

日程第 3 (議案第56号) 相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書の採択について(学校教育部)

日程第 4 (議案第57号) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について(教育局)

4. 閉 会

出席委員(5名)

委 員 長 小 林 政 美

委員長職務代理者 大 山 宜 秀

教 育 長 岡 本 実

委 員 田 中 美奈子

委 員 福 田 須美子

説明のために出席した者

教 育 局 長 小野澤 敦 夫 教育環境部長 大 貫 守

学 校 教 育 部 長 土 肥 正 高 学校教育部参事 長 嶋 正 樹

生涯学習部長	小山秋彦	教育局参事 兼教育総務室長	鈴木英之
教育総務室長 担当課長	杉山吏一	教育局参事兼総合 学習センター所長	金井秀夫
学務課長	馬場博文	学校教育課長	西山俊彦
学校教育課長 担当課長	林由美子	学校教育課長 担当課長	江戸谷智章
学校教育課長 担当課長	齋藤嘉一	学校教育課長 担当課長	小泉勇
学校教育課 指導主事	久保高志	学校教育課 指導主事	黒岩由貴子
学校教育課 指導主事	佐藤由起	学校教育課 指導主事	宮原幸雄
学校教育課 指導主事	檜木諭志	学校教育課 指導主事	石井紀子
学校教育課 指導主事	笹嶺由香	学校教育課 指導主事	川邊亮子
学校教育課 指導主事	森美香	学校教育課 指導主事	飛矢崎明美
生涯学習部参事 兼生涯学習課長	小森豊		
事務局職員出席者 教育総務室主査	萩生田成光	教育総務室主任	秋山雄一郎

開 会

小林委員長 それでは、ただいまから相模原市教育委員会7月定例会を開会いたします。

本日の出席委員は5名で、定足数に達しております。

今回の会議録署名委員に、田中委員と大山委員を指名いたします。

はじめにお諮りいたします。本日の会議を公開の会議とすることによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

小林委員長 では、本日の会議は公開といたします。

傍聴人の方は、お入りいただいて結構でございます。

(傍聴人入場)

小林委員長 本日の案件は、審議が長時間にわたりますので、傍聴者につきましては、審議に支障のない範囲で、係員の許可により、随時、入退室を認めます。

相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択について

小林委員長 それでは、これより日程に入ります。

日程1、議案第54号、相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

土肥学校教育部長 議案第54号、相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択について、ご説明申し上げます。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により、相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書を採択いただきたく、提案するものでございます。

よろしくご検討くださいますよう、お願い申し上げます。

それでは、具体的なことにつきましては、西山学校教育課長からご説明させていただきます。

西山学校教育課長 平成26年5月の教育委員会定例会議案第42号において、教科用図書の採択の基本方針として、中学校において平成27年度に使用する教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に則り、採択するとご決定いた

いただきました。

よって、平成27年度に相模原市立中学校で使用する教科用図書につきましては、別紙一覧のとおり、現在使用しているものと同一のものを採択いただきたく、提案申し上げます。

以上で、議案第54号、相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択についての説明を終わらせていただきます。よろしくご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

小林委員長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

大山委員 ただいまのお話では、現状使用しているものを来年度も使用するということがございますが、現場で何か問題点等はございませんでしょうか。

西山学校教育課長 現在使用している各種の教科書につきましては、学校の方から特段の問題点等は上がっておりません。

以上でございます。

小林委員長 よろしいですか。

大山委員 はい。

小林委員長 そのほか、委員の方からありましたら、どうぞ。

(「なし」の声あり)

小林委員長 ありませんので、これより採決を行います。

議案第54号、相模原市立中学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択についてを、原案どおり決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、議案第54号は可決されました。

相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択について

小林委員長 次に、日程2、議案第55号、相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択についてを議題といたします。

本件については、教育委員各自が採択権者の一員として重要な役割を担うという認識のもとで、対象となる全ての教科用図書について閲覧し、教育委員会協議会の開催など、事前の学習活動を通して内容の吟味を行っているところでございます。

本日の審議は、量的にも非常に多いものとなると思われますので、これまでの取組経過を踏まえ、また、相模原市教科用図書採択検討委員会の調査・検討結果を参考に、できる限り効率的に行っていただきたいと思います。

したがって、提案理由の説明については、明瞭、簡潔にお願いするとともに、各委員の質疑、ご意見等につきましても、よく内容を精査した上で、発言していただきますよう、お願いいたします。

あわせて、発行者名については略称を用いること、そしてまた、敬称は省略させていただきたいと思っておりますので、ご理解のほど、よろしくお願ひしいと思ひます。

なお、各教科の種目ごとに採択を行い、全ての教科の採択が終了した後で、議案第55号の採決を行いたいと思ひますので、よろしくお願ひしいいたします。

それでは、提案理由の説明を求めます。

長嶋学校教育課長 議案第55号、相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択について、ご説明申し上げます。

本議案は、業務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により、相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書を採択いただきたく、提案するものでございます。

相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択でございますが、相模原市教科用図書採択検討委員会を設置し、採択基本方針に従い、必要な事項の調査・検討をいたしました。採択検討委員会において、全ての検定済み教科用図書48種253点の調査研究が行われ、調査員の調査報告、学校の教員の意向を参考に、種目ごとに2者の教科書が推薦されました。

本日の定例会では、採択検討委員会の調査研究結果を事務局である学校教育課から報告いたします。

調査員の教科用図書全48種の調査報告書と学校の意向調査結果につきましては、先日、教育委員の皆様にお渡ししております。

本市の採択の基本原則に則り、採択検討委員会の調査研究の結果等を参考に、本市の学校、児童、地域等の特性を考慮して、関係資料の1ページから7ページの平成27年度使用小学校教科用図書目録の中から、種目ごとに1種の教科用図書を採択いただきたく存じます。

それでは、各種目につきましては、学校教育課長から具体的に説明をさせていただきます。

す。

西山学校教育課長 本市では、基礎・基本を大切にしながら、自ら学ぶ意欲を育てるために、子ども自身の気づきや発想を生かした「楽しくわかる授業」を目指しております。

採択検討委員会では、子どもが「わかった」「できた」という実感や、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という意欲を持てる授業づくりに役立つ教科書という視点で、各教科の特色に応じて、協議・検討がなされました。

本日は、その結果、推薦された教科書の特徴について報告をさせていただきます。

それでは、国語の報告をさせていただきます。

国語は、5者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、言葉の豊かさを味わいながら、主体的に学び、国語による表現力や理解力が身につく内容となっております。

本市の子どもたちの状況といたしましては、文章を読み、書かれている内容を捉える力に課題が見られます。文章を読む力を身につけることができ、また、主体的に学習に取り組めるように、単元の見通しを持ち、自分で学習したことの振り返りができるような工夫があるかということを中心に検討した結果、東京書籍「新編 新しい国語」と、光村図書「国語」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、読むことの事項につきましては、多様な学習が行われるように、各学年において、音読、そして読み深め、読書、最後に表現などの活動が配列されております。各学年において、同じ順序で学習を行うことにより、系統的に読むことの力が身につくように配慮されております。書くことの事項につきましては、創作の活動を重視し、全ての学年において物語や詩を創作する単元が設けられております。創作の学習を通して、豊かに発想する力、考えたこと、感じたことを確かに表現する力が身につくように配慮されております。また、学年の早い時期に国語のノートの作り方掲載されており、児童が学習内容を振り返ることができるように工夫されております。

次に、光村図書でございますが、読むこと、説明的な文章につきましては、冒頭に本単元で身につけたい力が提示されており、まず見開きの短い文章の教材で、文章の構造を学び、次のページから始まる教材で、学んだことを活用して、自ら学習を進めていけるような構成となっております。話す、聞くの単元、特に話し合うことに関する学習では、児童が見通しを持って、自ら学習に取り組むことができるよう、活動の流れが具体的に示されております。巻頭に設けられているページで、前の学年までに学習したことを確認し、振

り返ろうでは、自分が学習したことを確認できるような構成となっております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

大山委員 読む力をつけさせるための特徴的なことというのは、どういうことでしょうか。

森学校教育課指導主事 それでは、光村図書の4年生の教科書をご用意いただいでよろしいでしょうか。上巻を使います。

説明的な文章におきましては、3年生以上の1学期の単元で見開きの教材を用意して、文章の構造を学ぶようになっております。次のページから始まる教材で、学んだことを活用して読むことで、学習を定着する工夫がございました。

上巻の40ページをご覧ください。「大きな力を出す」という教材がございました。こちらを読みまして、それぞれの段落のつながりについて学ぶようになっております。

次の42ページ、「動いて、考えて、また動く」という教材では、段落同士のつながりに気をつけながら、詳しく読み、自分の考えを深めて発表する活動へとつながっております。

続きまして、東京書籍の4年生、上巻をご用意ください。

同じく、説明的な文章におきましては、単元が読解の基礎、比べ読み表現の工夫、情報活用、自分の考えを深めるの順で、系統的に配列されております。

4年生、上巻の33ページをご覧ください。「ヤドカリとイソギンチャク」という教材では、段落と段落の結びつきを考え、文章のまとまりを捉えるようになっております。

次に、同じ上巻の97ページをご覧ください。「広告と説明書を読みくらべよう」では、段落のつながりを考えながら、目的に合わせた表現の違いを読み取るように構成されておりました。

小林委員長 大山委員、よろしいですか。

大山委員 はい。

小林委員長 読むことに関しては、教育出版でも6年生の「森林のはたらきと健康」というところで、読み取ったことをベースに推薦文を書いて、そしてまた目的に応じて読む力を身につけられるように設定されているので、それは光村図書の読むことの説明文章で、3年生以上に、また、1学期単元において、見開きで文章が構成されているわけですね。

第1教材と、それから第2教材で、基礎と、それから応用と、そういう中で出ています。それから、東京書籍でも、4年生の「こわれた千の楽器」の中で音読、「ごんぎつね」で読解と、各単元で身につけさせたい言語活動が設定されていると。やはりこれも目的に応じて、読解力、思考力がつくように単元配列がなされている、そんな点が見られるのではないかと捉えましたが、いかがでしょうか。

光村図書を見まして、入門期、1年生が、小学校の学びの文化に足を踏み入れる時期なのですが、教科書の冒頭の約17ページを「さあはじめよう」で、その単元は非常に充実しているなと理解しているのですが、学校図書もインデックスを分けると音声言語から文字言語へスムーズにできるように配慮がなされているし、あと、三省堂も「みつけたみつけた」の教材が設定されていて、言葉にして伝え合う喜びが味わえるようになっていますよね。入門については、そんなところが言えるのではないかなと考えております。

田中委員 学校現場では、こういう1年生の導入の部分というのは、それぞれ違うと思うのですけれども、先生方はどのくらいの時間をかけ、どのような活用をされるのでしょうか。

森学校教育課指導主事 1年生の時期ですと、まだ教室の環境にも慣れていない状況から学習が始まるのですけれども、子どもたちはあまり、今は国語だ、今は算数だというよりは、まず学習の基本となる姿勢ですとか、どのように机や椅子に座ったらいいのかな、鉛筆をどのように持ったらいいのだろう、授業の中で挨拶をしたり、指名をされてから発言しようねという、勉強の基礎となるところを学んでいきますので、今回、国語の教科書は、どの会社も最初のところでいきなり文字の学習から入るのではなくて、徐々に段階を経て扱ってられるのは、どれもいいなと感じました。

小林委員長 よろしいですか。

田中委員 はい。こういうページは有効だということですね。

福田委員 書くというところでちょっと、そののところ、読む、書くとありますので、書く方について、特徴のある教科書をご紹介いただければと思うのですが。

森学校教育課指導主事 書くことにつきましては、どの会社も工夫があるのですけれども、ただ書くだけではなくて、読んでから書くですとか、話して、聞いてから書くというように、書くだけの活動が独立するのではなく、言語活動の中で、スムーズな流れで必然的に書けるようにと配慮がなされておりました。

小林委員長 福田委員、よろしいですか。

福田委員 はい。

田中委員 推薦ということで、検討委員会の方から光村図書と東京書籍ということで挙がっていますが、中で同じような教材を使っている場合、それぞれの取り扱い方の特徴的なもの、検討委員会から挙がってきた何かがあれば、教えていただきたいのですけれども。

森学校教育課指導主事 特に検討委員会で詳しく教材を見比べてという検討はなされていなかったのですけれども、同じように4年生で「ごんぎつね」ですとか、6年生、「大造じいさんとガン」という作品が多くどの出版社にも入っていたのですが、そのときに、各会社ごとにその教材を通してどんな力をつけさせたいのかというのは、会社それぞれの工夫がございました。

小林委員長 よろしいですか。

田中委員 はい。

小林委員長 学校図書を読むと、生活の中に生きている読書ということで、図書館利用や選書の方法などを学ぶ機会があるのですね。そういう読書活動を通して高め合えるよう、国語の鍵というコーナーが設けられて、これなんかも非常に有効ではないかなと考えているのですが、いかがでしょうか。

田中委員 図書については、他者でもいろいろな本を推薦したり、こういう本を読んでみようということで、いろいろ工夫されているなと思いました。

福田委員 やはり国語というのは、言語生活、言語活動を充実させていくというのは、もちろん先生の指導もありますが、子どもたちがやはり自発的、自主的にどんどん読んでいくというような、そういう狙いというものが教科書の中であった方がいいと思っておりますけれども、そういう点から考えましたときに、この2者を挙げられましたけれども、その辺の若干、差異化したところでお話し願えればと思いますが、いかがでしょうか。

森学校教育課指導主事 子どもたちが自分から読んでいけるようにということで、先ほど話題が上がったのですけれども、活動の流れが書いてあります。光村図書でいいますと、教材を読んだ後に、手引きといたしまして、学習というページがあります。先ほどの4年生の48、49ページもそうなのですけれども、見開きになっておりまして、この中で学習をどのように進めていったらいいのかなというのが簡潔に示されておりますので、こういうわかりやすく表示されている点も、子どもが主体的に学習していくためには、良い配慮ではないかなと検討委員会でも検討されておりました。

福田委員 その中でも、やはり自分の考えを持とうとか、自分の考えを発表しようという、

感じたことを率直に述べ合える点が、光村図書では強調されていると私も捉えました。

小林委員長 話すこと、聞くことというところで、光村図書では、2年生以上の上巻に、言葉の準備運動というのが入っていますよね。それはどんなふうに皆さんは捉えていますか。なかなかおもしろいなと思って僕は見ていたのですが。学級活動の導入なんかを入れながら、言葉の準備運動があるのですけれども。

福田委員 上ですよ、2年の上。

小林委員長 そうですね。

田中委員 どの学年にも入っていますよね。

小林委員長 2年生以上に入っている。

福田委員 ありますね、言葉の準備運動という。しっかり聞こうというところとか、声をかけ合うとか、そういうところは導入、学年の浅いところで少し、言葉を学ぶ姿勢というのが培われるように思います。もっと楽しもうと思いますよね、言葉を。

小林委員長 準備運動になりますかね。

福田委員 よく聞くということはとても重要なことですね。

小林委員長 そういう意味で、とてもいい企画かなと思いますよね。

田中委員 学年によってテーマが、準備運動についても、それぞれに適したような準備の課題が与えられていて、とてもおもしろいと思いましたし、言葉について、いろいろなことをいろいろな視点から考えられたり、自分で言葉を発表したりというところで、言語活動の準備というところでは、取りかかりやすい課題になっているのではないかなと思いました。

小林委員長 これからの教科書にも出てくると思うのですが、教科によって性質が違いますが、分冊になっている教科書となっていない教科書、その辺はどんなふうに捉え、判断したらいいのか、お考えを。

森学校教育課指導主事 今回、分冊になっている教科書と、高学年になると1冊にまとまっている教科書がございました。その中で、高学年、5、6年生が1冊になっている良さについてでございますけれども、まず中学校に入りますと、子どもたちは1冊の国語の教科書を使って勉強するようになりますので、中学校に入学したときに、大きく環境が変化することへの配慮がなされておりました。また、学習したことを常に振り返ってもらったり、また、今後どういう勉強をするのだろうと見通しを持ってもらうためにも、分冊ではなく1冊で持っている方が、子どももこういうことを前に勉強したよねと、すぐその場で

振り返ることができるので、高学年になると1冊にまとめている発行者が多いのかなと検討されました。

福田委員 今、高学年とおっしゃいましたけれども、実際に使う児童にとって、何年生ぐらいから1冊になるのがいいのでしょうか。随分厚いのですよ、三省堂あたりは特に、分冊が1年生だけですから、2年生、3年生というのはずっしりくるのですけれども、やはり高学年ということではいいかと、4年生以降というようなことが望ましいとお考えでしょうか。

森学校教育課指導主事 子どもそれぞれの体力ですとか、体格等はいろいろございますけれども、1、2年生はまだ自分のランドセルを背負って通ってくるのも大変なお子さんもいらっしゃいますので、やはり分冊の方が適しているのかなと思います。5、6年生になりますと、学校生活にも慣れてきておりますので、体力とともに気持ちも大人になっておりますので、5、6年生あたりからは1冊で徐々に中学校への準備を始めてもいいのかなと考えます。

福田委員 先ほど準備運動の話がありましたが、今度はやはり少し発展的なところで、学校で習うだけでは、もう本当に限られている言語生活、言語活動ですから、発展的にこれを膨らませていく工夫として、各発行者、それぞれ工夫があるかと思うのですが、ちょっとその辺のところでは特色のあるところを挙げていただければと思います。

森学校教育課指導主事 どの発行者もやはり十分に工夫されていたのですけれども、特に国語で勉強したことを読書活動につなげていこうということで、こんな本があるよというたくさん本を、巻末ですとか途中で紹介してしまったり、単元が終わった後にも、表紙の写真を書きながら、こんな本も関連しているよと紹介がなされておりました。

小林委員長 よろしいですか。

福田委員 はい。

田中委員 先ほどもちょっとお話が出たと思うのですが、光村図書の教科書なのですけれども、単元の最後のところに学習、それから振り返ろうというところで、その作品を読んだ後、そうやって子どもたちに、どういうふうに文章の内容を捉えたらいいとか、考えを発表しよう、そういう中で、最終的に自分の考えを持とうというところで、振り返りとして、あなたはどうかと持ちかけているところは、すごくいいのではないかなと思いましたし、この見開きで、こういうふうにとまとめられているというのが、自分自身、学校でももちろんなのですけれども、子どもが自宅に帰ったときにでも、振り返りやすいよう

な書式になっているのではないかなと私は思いました。

福田委員 国語の学習の始まりから発展過程までいろいろ意見も出たと思うのですが、この中で、教科書を私たちも十分に学ばせていただきまして、その上で、やはり学びやすさという観点、特に子どもたちが自ら取り組んでいこうとか、作品に引きつけられてどんどん読んでしまうとか、そのような観点が国語の場合というのはとても重要だと思います。

そういう点と、それから読むことについても、先ほど指導主事の方からも説明がありましたように、活動の流れ等についての学習の仕方に配慮されたということ、それと同時に、紙面の使い方が学んでいくときにとても学びやすいというようなことがありまして、光村図書の名前が挙がったかと思うのですが、総合的にやはり読む、書くことについても、実は光村図書の方では、本当に文を書くというところから、日記を書く、そしてどんどん活動報告もきちんと根拠のある取材、事実あったことと、意見を書くとかというような、丁寧な書き方指導があって、今現代、日本人なのに、日本語はしゃべられるのだけれども文がなかなか書けないというような現状の中で、書き方についても徹底した指導がなされているように私は感じました。

その点と、それから教材作品のすばらしさ、子どもの心をつかむというような、そういう点でどんどん学習が進んでいくという観点から見まして、総合的に光村図書がすぐれていると思いました。

また、新しいといえますか、現代的な課題で、少し社会にも目が開かれるということで、重要な側面も国語は担っているわけですが、5年生の教科書の中で、「百年後のふるさとを守る」ということで、震災と津波という題材をもとにして、今日的な課題を考えていくようなものもあえて取り上げているという、そういう工夫の仕方等も含めて、光村図書が最適ではないかと私は判断いたしました。

小林委員長 光村図書で5年生ですか、「千年の釘にいどむ」というところで、四国の釘職人の話が出ていますね。この辺なんかはたくましく生きる力をつけるのだという、かながわ教育ビジョンにマッチしているのかと思います。それから、4年生で、今西祐行さん、藤野に在住したことのある方の「一つの花」ですが、これは、家族や郷土を愛するということでは、やはりかながわ教育ビジョンにも非常によくマッチしているのではないかなという感じがします。「一つの花」は三省堂でも、あるいは、今西先生の作品は東京書籍も「ヒロシマのうた」を使っていますけれども、その辺は非常にマッチしているかなという

感じがします。各ビジョンだとか、相模原市の教育振興計画の狙いにも合っているのかなという感じがいたします。

今、福田委員が全体をまとめましたけれども、皆さん、ご意見はありますか。

全体的には光村図書がいいのではないかとのご意見が出ましたけれども、ほかにご意見等はございませんか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 それでは、国語については、光村図書の「国語」を採択するということでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 異議ございませんので、国語については、光村図書の「国語」を採択することにいたします。

続きまして、書写に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、書写の報告をさせていただきます。

書写は、6者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、基礎・基本が身につくような教材の配列や、紙面の工夫、他教科の学習や日常生活で書写技能を活用できるような教材の配慮がなされておりました。

本市の子どもの実態といたしましては、鉛筆などの筆記用具が正しく持てていない、毛筆においては、筆遣いを意識せずに文字を書くなどの様子が見られます。初めて硬筆を学ぶ1年生、毛筆を学ぶ3年生にとって、文字を書く基礎がわかりやすい教科書であるかということを中心にした結果、東京書籍「新編 新しい書写」と、光村図書「書写」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、硬筆の導入の際は、箸の持ち方を例にとり、鉛筆の持ち方をカラー写真でわかりやすく表示しております。また、毛筆では、横画を練習する前に、毛筆の基本となる筆圧について、写真やイラストを用いてわかりやすく表示されております。ページの左側にはインデックスが設けられており、既習事項を振り返ることができるようになっております。

次に、光村図書でございますが、1年生から6年生まで、各学年の巻頭で、書くときの姿勢や用具の準備、片づけを系統的に繰り返し丁寧に提示し、書くときの基礎・基本の定着が図られております。5、6年生の教科書の巻頭には、学習の見通しを持つというペ

ージが設けられており、見開きのページの中に学習内容を整理して表示し、主体的に授業に挑めるように配慮されております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

田中委員 現在は、国語が光村図書、そして書写が東京書籍だったと思うのですが、国語と書写というのは、私たちの感覚からすると、すごく近いものだと認識するのですけれども、発行者が違うということで、何か不都合ということはないのでしょうか。

森学校教育課指導主事 その点は、検討委員会でも十分に検討されたことでございました。今回は、書写の教科書を選ぶということで、国語と連動ももちろん大切なのですけれども、書写の教科書としてすぐれているものということで検討させていただきました。

中でも、新出漢字、新しく出てきた漢字のところで、まだ習っていないものが出てきてしまうことがございますが、その場合には、新出漢字につきましては、筆順が丁寧に示されておりまして、これはこんなふうを読むのですよと読み仮名が振られておりまして、今回、新しい漢字を学ぶのではなく、漢字を使って文字の基本となる原理、原則を学ぼうということで検討させていただきました。

田中委員 その新出漢字については、扱い方としては、どの教科書でも同じような感じでしょうか。

森学校教育課指導主事 どの発行者でも新しい漢字については、筆順が示されておりまして、振り仮名につきましても、3者がきちんと、このように読みますと振り仮名の方も振られておりまして。

小林委員長 田中委員、それでいいですね

田中委員 はい。

大山委員 書写でもって、まずは鉛筆で書くということですがけれども、今までの入学前の生活習慣とかその辺で、どうしても私、職業上、箸とか鉛筆というのは、かなり相関があるのではないかなと。小学校へ入学して、なかなか困難を感じずような児童もいらっしゃるのではないかなと。その上で、この教科書の果たす役割といたしますが、かなり各者によって取り組み方が違うのですが、その辺の特徴について、まず入ったときに鉛筆を持つところ、何か優位性のようなものはございましたでしょうか。いろいろな工夫があるようですがけれども。

森学校教育課指導主事 子どもたちが入学してくる時に、鉛筆の持ち方、きちんと持てている子もいれば、まだ、どういうふうにしたらいいのかは特に勉強してこなかったという、いろいろな児童がいる中で、やはり書写の時間を使って丁寧に筆記用具の持ち方を教えることは大事ではないかなと思われます。

例えば、光村図書でいいますと、1年生のはじめのところ、4ページから、このように開いて載っているのですけれども、鉛筆が机の上に置いてあるときに、それをつまんで、持ち上げて、ずっと自分の方に倒して、中指を枕に添えて、きちんと上手に持てたのかなというように、順番を追って鉛筆が持てるような配慮がなされておりました。

それから、東京書籍の方でいいますと、お箸の持ち方の例が写真で示されておりまして、お箸を持ったときに、2本目の下のお箸を抜きますと、上の箸がちょうど鉛筆の持ち方に似た持ち方をしておりますので、ふわっと力を特に入れることもなく、自然に持つことができるという形が表示されております。

また、写真がとても大きく出ていますので、児童が自分の手の形と見比べながら確認することも非常にわかりやすいのではないかと思います。

小林委員長 よろしいですか。

大山委員 はい。

田中委員 先ほどのご紹介の中で、筆圧についてというところがあったと思います。各者の毛筆の筆圧については、それぞれ取り上げていると思うのですが、今、挙げられた東京書籍、光村図書の中での特徴的なところを挙げていただきたいのですけれども。

森学校教育課指導主事 筆圧というものは、毛筆を初めて勉強する3年生で出てきております。東京書籍につきましては、7ページに筆圧のことについて載っております。毛筆で最も大事にしたいのが筆圧になりますので、次の勉強の横画が始まる前に、実際に写真ですとかイラストを使いながら、わかりやすく筆圧のことが説明されておりました。

光村図書につきましては、横画、縦画、折れという学習が終わったところで、20ページのところで、力の入れ方がいろいろな太さを書くもとになっているのだよということで、こちらイラスト、写真をつけて説明の方がなされておりました。

ただ、指導する者としては、最初から筆圧のことは意識して子どもたちに文字を書いてもらいたいので、教科書のはじめの方に筆圧について触れてある方が使いやすいかなと感じております。

小林委員長 筆圧を最初にやって、それから横画とかの手順の方が指導がしやすいという

ことですか。

森学校教育課指導主事 東京書籍の3年生8ページをご覧くださいませでしょうか。

初めて横画を練習するところになります。サインペンや鉛筆のように穂先の硬さが一定ではなく、筆というのはやわらかいものですので、やはり筆圧を意識しないと始筆の入り、それから送筆、途中で書いているところ、最後の終筆で若干力を加えるといいですか、その微妙なところで筆圧のことを意識していないと、そのまま筆を目いっぱいおろしたまま、ぐっと横に書いてしまったりですとか、その後の学習、払い、右払い、左払いのところでは筆圧のことが意識されていないと、やはり全部筆で書いているのに、マジックのような、サインペンで書いたような文字になってしまいますので、最初のうちに十分に筆圧のことも意識させておいた方が、次の学習にスムーズに入れるかと思います。

以上でございます。

小林委員長 筆遣いを擬態語で示しておりますよね、「トン」「スー」「ピタッ」という、これは東京書籍、教育出版、日本文教出版ですかね。それから、光村図書は「トン」「スー」「トン」ときていますよね。これは、検討委員会では話題になったかどうか。もしなかったら、その内容、それから、学校の子どもたちにとってはどうなのでしょう。その辺について、状況を教えていただきたいと思います。

森学校教育課指導主事 今ご指摘いただきましたように、擬態語を使って筆の使い方というのを説明している発行者がございました。その中で、光村図書は「トン」「スー」「トン」というふうに、終筆、終わりのところも「トン」となっておりました。検討委員会でも話題に上がったのですが、始筆が「トン」、終筆も「トン」だと、ちょっと「トン」「トン」で書くときにまた力が入ってしまうのかなというところで、検討委員会では、「トン」と入って、「スー」と横に引いて、「ピタッ」ととまる感じが、微妙な筆遣いをよく表しているのではないかなというようなご意見がございました。

小林委員長 それについていかがでしょうか。

福田委員 やはり1年生のときに、同じ「トン」「スー」「トン」というのと、こっこの「トン」とこっこの「トン」が全く同じであればいいのですけれども、やっぱり差異化していかないと混乱するということはあると思いますね。

その方が「ピタッ」とくるのではないのでしょうかという。

小林委員長 もう一つ、特色を持っている部分が、光村図書が、初めて漢字を習う1年生と初めて筆を手にする3年生に、文字がきちんとそろうように、文字の原理、原則という

のですか、文字の決まりをやっているのですが、ちょっとほかの教科書にその部分が、私、見つからなかったのだけれども、いかがでしょうか。1つの特色かなと思った。非常に文字の形に力を入れているなど。それについてご意見は何か。光村図書はそれを強調しているように感じるのですが、いかがでしょうか。

また東京書籍の見本では、半紙大の大きな字がどんと入っているのですよね。これは1つの特徴かと思います。

福田委員 手本の示し方として、やはり小学生にどのようなものが良いのかというのはあると思いますよね。

それとあと、何といっても、書くことに特化した科目というか、そういう国語との関連で位置付けられていると思うのですけれども、そうなってくると、やっぱり書き順というものがずっと入ってくるということも大事だと思うのですね。字の形もゆがんできますので。そういうことでいうと、東京書籍の方は、5色刷りでわかりやすいという面、それから、手本も大きくてわかりやすいという面はありましたよね。

小林委員長 ほぼ半紙に近い大きさでなっていますね。

福田委員 そうですよ。

田中委員 この見本というところでは、確かに1ページに1つの見本があって、周りに余計なものが入っていないといったら変ですけども、東京書籍はそういうところがすごく特徴的だなと思いました。見本があって、横のページでそのポイントというのを示しているのかもしれないという意味では、見本として見られる、子どもたちは見やすいのかなというのをすごく感じました。

福田委員 あと、今、取っかかりのところというのはとても重要だから、それはそれで、今、大分議論が出たと思うのですけれども、発展させていくということである、流れ、指導の流れ、あるいは学習の流れというところにちょっと工夫があるかなと思うのですが、その辺のことについて、少しご説明をいただければありがたいなと。

森学校教育課指導主事 まず、東京書籍の場合ですと、ワイド版で紙面が大きくなったのですけれども、左側のところに、これから勉強していく予定のものについては後ろのページで、何ページに書いてあるよと示してありまして、既習したものにつきましても、前のページで既習しているよねということで、今まで学習してきたことがつながっているのだよというのが意識できるように、左側にインデックスが設けられておりました。

福田委員 何年生以降かな。3年生。

森学校教育課指導主事 ごめんなさい、3年生以降です。毛筆のところでは。

福田委員 東京書籍。

森学校教育課指導主事 東京書籍です。ページが進んだ方がいいかと思いますので、東京書籍、3年生の13ページ、「日」という字を書くときに、折れというものをここでは学習するのですが、その前に既に横画の書き方、縦画の書き方は8ページや10ページで学習しているよというのがわかりやすく書かれておりまして、本ページで勉強したいのは折れであるということ、また、この後、画と画の間の間隔や接し方については、後ろの40ページ、41ページでまた勉強していくよというように、今後の流れも書いてございました。

それから、光村図書の方では、高学年、5、6年生の教科書の巻頭なのですが、学習の見通しを持つというページが用意されております。目次の上に書かれていますが、まず最初に、書く姿勢、基本を押さえて、その後、この学年ではこういう勉強をしていって、最後には日常に生かしていくのだよということが、高学年の方ではすっきりとわかりやすく表示されておりました。

小林委員長 今、学びを広げるという福田委員の考え方です。日本文教出版の学習の手順の中で、考える、確かめる、生かすとして、系統的に学習内容が構成されていまして、安心して子どもが学びの幅を広げることができるのではないかと思います。

それに対して、教育出版も学習の進め方で、生かそう、振り返ろうという形で、わかりやすくなっています。

それから、三省堂も載っていますね。特に低学年では、書く、わかる、書いて確かめる、振り返る、学びの手順が一緒となっていますが、日本文教出版の広げるという部分は、やはり1つの大事な点を、編集の中で組み込んでいるのではないかと思います。

福田委員 それだと東京書籍でも、本当に学習したことを、例えば6年生の6ページで、学習したことを生活に広げようという、そういうような形で実際に書かれています。

小林委員長 各者、ほとんどそうですかね。

田中委員 そうですね。

福田委員 それは、例示の仕方が、今、工夫されている部分があるかなと思います。

やっぱり国語と本当にリンクさせた上で、しっかり書き、かつ正しい日本の文章を社会人になったら書ける、特に義務教育が終わった段階で、どこまで達成させるかというのは、本当に今日の指導要領の改正に則って、やっぱり日本語力を身につけないと社会では通用

しないということを徹底させて、相模原市でも、文章が書ける、そういう子どもたちの育成という観点でも、この書写というのは大切であると思います。ただ書き方という捉え方が浅いのです。なので、書き方というのは本当に文章を書くところまできっちりつながっていくものだという捉え方で、ぜひお願いしたいなと思います。

小林委員長 特にパソコンとか、そういう書くチャンスがなくなってきていますから、非常にこれは大事な分野ですね。

いかがでしょうか。ご意見を多くいただきましたけれども、総じてどうでしょうか。

福田委員 では、私の方からまとめさせていただきますと、東京書籍の教科書というのは、入門期の子どもたち自身も実際にまねてみる、本当に実物大でまねてみるができるというような構成になっているということで、導入期での鉛筆、毛筆の持ち方、筆圧のことも等を丁寧に指導していく、学んでいくということから、3年生ぐらいになって、少し良い字を書け、全体として文を書くところに向けての発展的な指導に目配りをした、いい教科書になっているかと思います。

小林委員長 ということは、東京書籍が適切であると。

福田委員 本当にどこの発行者もいろいろ工夫なさっていますけれども、書写は学校ではあまりやりませんから、時間数的に。なので、家庭でもしっかりと学べるという観点からも、また、教えやすい、学びやすいだけでなく、しっかりと使えるという観点から見たときに、東京書籍はよろしいのではないかなと判断いたしますが、いかがでしょうか。

小林委員長 全体的に東京書籍がという意見が出ておりますが、ほかの意見、あるいは質疑がございましたら。

(「なし」の声あり)

小林委員長 ありませんので、書写については、東京書籍の「新編 新しい書写」を採択するというところでいかがでしょうか。異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 異議がございませんので、書写については、東京書籍の「新編 新しい書写」を採択することにいたします。

続きまして、社会に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、社会の報告をさせていただきます。

社会は、4者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、各者

とも問題解決を意識した構成となっております。学習の進め方として、課題をつかみ、調べ、話し合い、まとめ、それをさらに深める、広げるという学習段階が示され、問題解決の流れがわかるようになっております。

社会科では、学習指導要領において、社会的な見方や考え方を成長させるとあり、問題解決的な学習などを充実させる中で、思考力、判断力、表現力をつけていくことが求められております。

本市としても、これらの能力を身につけていく授業改善が求められております。そのためには、資料に対する子どもの気づきから学習課題をつくり、主体的に学習を展開していくことが大切であり、この気づきを促すための資料提示や構成が効果的であるという点から、東京書籍「新編 新しい社会」と、教育出版「小学社会」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、学習の進め方を設け、つかむ、調べる、まとめる、生かすといった学習段階をたどりながら、問題解決までの流れがわかるようにしてあります。また、吹き出しには、子どもの気づきとして予想される言葉が書かれており、子どもが話し合いを通して学習問題をつくり、主体的な調べ学習になるように構成されております。さらに、各單元には授業で活用できる写真やイラストなどの資料が数多く示してあり、全体的に豊富に資料がありました。

次に、教育出版でございますが、学習課題のつくり方と問題を解決していく過程の見通しを、つかむ、調べる、まとめる、深めるという流れで、わかりやすく示してあり、問題解決に向けた追求ができるように構成が工夫されております。特に單元のはじめには、子どもの気づきを促す資料が効果的に提示してあり、意欲を持って課題に取り組めるような工夫がされております。また、「水はどこから」の單元では、單元全体にわたり、相模原市の水源の事例が取り上げられており、単元の狙いに合致した構成となっております。さらには、問題解決に向けた追求を進めていく上で、特に大切な言葉をキーワードとして提示し、関心や意欲、問題意欲を喚起する内容となっております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終了いたしました。これより協議に入りたいと思います。質疑、ご意見等がありましたら、お願いしたいと思います。

大山委員 今、課長から説明がございました。吹き出しということをおっしゃっていましたが、その辺の効果というのは、何か各者によって違いとか、その辺があるのでしょうか。

宮原学校教育課指導主事 東京書籍、6年、上、48ページ「武士の世の中へ」をご覧ください。理解させたい内容を、常に戦いに備えていたのだねという形で、予想される子どもの考えの例として示しています。

それから、教育出版、6年生、上、39ページをご覧ください。子どもの気づきを促す視点を、どんな人がいるだろう、違いはどこにあるだろう、どのような特徴があるだろうと多角的に示し、課題へと深めることができるように書かれています。

それから、光村図書、6年生、47ページをご覧ください。子どもの考えが何のためにあるのかなという形で、子どもに気づかせたい箇所を指し示しております。

それから、日本文教出版、6年生、上の41ページをご覧ください。子どもの気づきが、服装を見ると手がかりになるかもしれないねという形で、注目する場所が書かれています。

以上、4者についての回答です。

小林委員長 よろしいですか。

大山委員 はい。

福田委員 やはり社会科といった場合に、相模原の子どもたちが相模原の地でしっかりと社会を見渡しながらかんでいくということがとても重要だと思うのですね。そういう視点から見ますと、相模原をしっかり根差したというところと言えるような表記等がありましたら、教えていただければと。

宮原学校教育課指導主事 まず、神奈川県、それから相模原市の内容に関する記載事項についてですけれども、教育出版では、3年生、4年生の上下巻で203箇所、5年生の上下で8箇所、それから6年生の上下で23箇所と多くあります。

例えば、水に関する学習のところで、相模ダムですとか、相模湖ですとか、そういった水源のことから、あと、浄水場に関するところまで、「潤水都市さがみはら」という言葉がございますけれども、相模原の特色として、水の学習に適したところがございます。

小林委員長 光村図書でも、相模原市、水のまち、研究のまちと取り上げていますね。取り上げ方はどうでしょう。同じ内容だと思うのですが、場所が。

宮原学校教育課指導主事 光村図書でも、神奈川県、それから相模原市に関する記載事項は、同様に数多くあります。同様に相模原市を扱っておりますけれども、その単元で押さえさせたいこと、学ばせたいことを、その事例地がどのように使われているかという部分で、そういったところに2者の違いがあるかと考えます。

小林委員長 先ほどの課長の報告のところで、東京書籍が各単元といいですか、つかむ、

調べる、まとめる、生かすというように問題解決の流れが示されて、学習しやすいだろうと、そういう報告がございました。その中に、さらに、「調べる」の中に、協力して調べる、教科書を使って調べる、教科書以外を使って調べる。「まとめる」も、調べてわかったこと、考えたことをまとめる、そういう意味でもまとめ方が非常に丁寧に例示されている。それから、「生かす」ところも、広げる、深める、さらに追求したい、そんな形で、かなり問題解決学習に対しては、非常に力を入れているなという感じを東京書籍はいたします。

それから、同じように教育出版の方も、学習課題の立て方、調べ方、資料の視点、それから表現方法といった問題、その問題解決の技能も全学年を通して系統的に使われている。その辺は、同じように問題解決には力を入れているのかなと感じました。

田中委員 先ほど相模原市が取り上げられているというお話があって、私も見せていただいていたのですが、本当に3、4年生というのは、まず自分たちの地域から学んでいこうというところで、市のこと、県のことというふうにやっていくと思うのですが、相模原市にとっては、本当に大変身近な教材を取り上げられているというところで、教育出版は素晴らしいなと思いました。素晴らしいというか、相模原市にとっては素晴らしい教材を取り上げていただいているなと思いました。

それから、歴史の部分で、教育出版は横に年表がついていて、光村図書もページの下にこの時代だよということを示されているという点では、今、どういう時代を勉強しているのかというのが一目で把握できて、なかなか歴史に取っつきにくい子たちでも、こういう順番で、ここの部分をやっているのだなということが一目でわかるのではないかなと思いました。

福田委員 ちょっと歴史的な分野について、何か特化したところで比較できることがありましたら、少し補足していただければありがたいのですが。

宮原学校教育課指導主事 先ほど「武士の世の中へ」というところをご説明させていただきました。例えば、単元のはじめの1枚の絵があります。例えば、教育出版ですと先ほどの38ページになりますけれども、その1枚の絵から、子どもたちが課題につながる気づきを促す上で、その気づきを促す視点という部分が、ここでは右に示されているかと思えます。見つけよう、比べよう、考えよう、多角的に気づかせたいというような特徴があるかと思えます。

福田委員 歴史的といっても、新しい時代のことについて少し何かあればと思ったのです

けれども、私自身は、やはり今、社会を見ていく目というのは、なかなか多岐にわたって、多岐にわたってというよりも、いろいろな課題があろうかと思います。そのときに、やはり平和都市で、平和を目指すというような観点でいいますと、教育出版の「平和で豊かな暮らしを旨として」という中で、もう戦争はしないというような項目がしっかり入っていたりと、憲法の話についてもしっかりと触れられているということだと思いますと、この教育出版が一番そういう点ではつくれているなと思ったのですが、いかがでしょうか。

小林委員長 ほかの扱いはどうなのですか。

福田委員 私も比較してみましたけれども、子どもたちがこれからの社会を考えていくときの争点でもありますけれども、子どもなりにみんな世界中で協力し合っというようなことが望まれる時代に、そういうことに目を向け得るという観点でいいますと、この教育出版が少し先んじていたように思います。

小林委員長 私は、東京書籍、それから教育出版、光村図書、日本文教出版の4者をかなり読み込んだつもりなのですが、読み込んだ中で、まず領土に関する問題、これはほとんど4者とも同じような論調で述べています。それから、考えたことを自分の言葉でまとめる資料の状況、あるいは発表や話し合いで互いの考えを深め合うための資料の状況、それから環境保全という問題、先ほど福田委員も言いましたが、現代にもつながる問題ということですね。環境保全、あるいは防災に関する資料、この辺は大体、4者ともほとんど同じような状況で、相互に共通部分があるかなという感じがしました。

それで、推薦された東京書籍も教育出版も問題解決の学習を重視していくという点では、非常にやはり酷似しております。

東京書籍が特徴的なのは、子どもに示す写真や資料が非常に豊富なのですね。ほかの発行者のが400ぐらいなのに600代の数字を挙げているのです。非常に豊富です。それで、それを活用して学習を展開する手順も具体的で、学習の進め方等で例示も非常に丁寧に示されています。

また、学習するための技能、この面も学び方コーナー等で非常に細かく掲載されておりまして、課題把握といいますが、問題把握から解決に向ける過程を見据えて、学びが展開されるように編集されているなという感じがいたしました。

それから、教育出版は、先ほど報告にもありましたが、基本スタンスといいますが、一貫して、子ども自らが気づくと、そして追求していく、それで課題を生み出していくのだと、この部分は非常に力点を置いているなという感じがします。そういう精神のもとに学

習が展開できるよう、資料提示の工夫だとか、仕組みといいますか、構成が見られるなど。

例えば5年の上ですか、米づくりの大きな写真集があったのを覚えていると思うのですが、私も記憶にあるのですが、非常にダイナミックな中から、子どもたちに何を気づかせるか、そういう点など、工夫が具体的に見えると思います。

それから、先ほど話題になりましたけれども、神奈川県に関する記載事項、これは極めて多いです。それから、光村図書もそれに次いで多いのです。そして、特に身近な教材、これも話題に出ました。「水はどこから」という相模原市の水源の事例が取り上げられていますけれども、やはりこの辺は郷土への愛着を育む、あるいは地域教材の強さというのですか、それを非常に感じました。

もう1つ、中学年は生活科からの関連と、それから体験的な学習を重視しています。それから、高学年にかけては、今度は資料活用能力の向上へと、いわゆる社会的事象の学びから、知識、技能、活用能力へと徐々にシフトを変えてきているのですね、発達段階に応じて。この辺の配慮というのは、非常に色濃く出ているなど感じられました。

この辺を考えてみますと、意欲的に子どもたちが取り組む姿勢を育むためには、教育出版の「小学社会」がより適切なのかなという感じが私はするのですが、皆様のご意見をまたいただければと思います。いかがでしょうか。

課題解決に関しては、4者とも大体似ているし、ただ、気づきを非常に大事にしてくれていますね。

福田委員 それと、東京書籍ではドラえもんが出過ぎてしまって。ちょっとそれはどうかとか。

大山委員 イラストということであれば、キャラクターは教科書という性質上からどうなのかなと。子どもにとっては日常的に見ていますから、興味を引くという点はあるかもしれない。

小林委員長 キャラクターは何か話題に出ましたか、検討委員会では。

宮原学校教育課指導主事 キャラクターにつきましては、例えば、男女というところですか、特に女子の発言ですとか、男子の発言というのがバランスよく配置してあるというところが印象に残ったものもありましたので、そういったところは、とても子どもたちにいい印象があるのではないかとこのところでございます。

福田委員 ジェンダーバランスという点でいうと、どこもそれは気配りしてあります。そういう点でも、それは甲乙つけがたい。教育出版も東京書籍もですね、つけがたいなど。

ただ、ちょっと私は、キャラクターがそういう特化された、ドラえもんになってしまっているのはどうなのだろうというふうな、ちょっと心にひっかかりがありました。

小林委員長 ほかにいかがでしょうか、ご意見。

(「なし」の声あり)

小林委員長 社会については、教育出版の「小学社会」ということでいかがでしょうか。異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 異議がございませんので、社会については、教育出版の「小学社会」を採択することにいたします。

続いて、地図に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、地図の報告をさせていただきます。

地図は、2者から発行されております。両者に共通した特色といたしましては、我が国の国土、環境、産業、歴史などの基礎的な知識のほか、我が国と関係の深い国の様子にかかわる情報が地図上に幅広く取り上げられており、広く世界に目を向けるという観点に沿った内容となっております。

学習指導要領において、地図帳や地球儀を活用する能力を育てることが求められております。子どもが社会科の学習活動の中で、地図帳を活用して、地形や土地利用の様子を理解し、地理的環境を認識しながら、学習活動を展開できるかという観点で検討いたしました。

はじめに、東京書籍「新編 新しい地図帳」でございますが、統計資料の文字の大きさ、適切な行間による見やすさ、索引のチェック欄やマイインデックスにより、資料として活用しやすくなっております。また、日本列島の連なりと海洋を鮮明にした地図や写真から、日本列島の東西南北端や日本を取り巻く海洋の広がりなどを捉えやすいように工夫されております。さらに、3ページにわたり、東日本大震災をはじめ、様々な自然災害が起こっていることを取り上げており、写真や資料から自然災害について認識することができるようになっております。災害に備える国や地域の取り組みを紹介し、防災や減災に目を向けるよう、言葉の投げかけが掲載されています。

次に、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」でございますが、4年生が初めて手にする地図帳として見たとき、地図の成り立ちや地図記号の理解、索引の引き方など、地図

の使い方に関するページが充実しており、子どもが理解しやすいものとなっております。  
また、日本列島の位置、日本の東西南北端、近隣諸国の名称や位置など、日本とその周辺の概要が捉えやすくなっております。特に経線や緯線が見やすく、国土の全体像を明確に捉える工夫がされ、さらに等高段彩表現と陰影表現と呼ばれる技法を用い、地理的環境を認識しやすい地図表現となっております。防災についても、日本が地震や火山の災害が多い国であることが捉えやすだけでなく、地域の防災マップを作成する活動を通して、災害時の身の守り方を考えることができ、防災への意識を高める工夫がなされております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。質疑、ご意見、お願いいたします。

大山委員 相模原市の子どもたちが学校で学ぶということの中で、この地図帳をどのように活用するかということについてお伺いしたいのですが。

宮原学校教育課指導主事 子どもが自分の考えたことや調べたことに対して、根拠として活用できるものであるということが大切であると考えます。そのためには、例えば、5年生の学習で食糧生産、米のところがあるのですけれども、米づくりの事例地を調べる際に、新潟県魚沼ですとか、庄内平野ですとか、その事例地を調べる際に、平野の広がりですとか、水利としての河川ですとか、それからさらには安定して水を供給してくれるこの山地山脈の存在ですとか、そういった地理的な環境を認識できるということが重要であると考えます。

福田委員 その点でいいますと、2者しかないのですが、ちょっと表記上の特性等についても触れていただけるとありがたいのですが。

宮原学校教育課指導主事 先ほど学校教育課長の説明からもありましたけれども、等高段彩表現、それから陰影表現という、この帝国書院の表現方法ですけれども、土地の高低と、それから平野ですとか、山脈というところが、色でその高低差がつかみやすくなっているというのが帝国書院の特徴かと思えます。

それから、東京書籍につきましては、A4サイズというか、大きなサイズで広くとられているところが特徴であるかと思えます。

福田委員 ということは、自然の状況を想像しやすいということである、帝国書院の方が見やすいと、そういうことがイメージしやすいということはあると理解してよろしいですね。

宮原学校教育課指導主事 土地の状況を把握する上では、帝国書院の方が把握しやすいの

ではないかと考えます。

福田委員 それと、資料というのは本当に最新のものが必要だと思うのですが、そういう点でいうといかがでしょうか。地理的な状況も若干変わってくるかと思うのですが、その辺の配慮については、どのように捉えていらっしゃるでしょうか。

宮原学校教育課指導主事 例えば、本市に注目してみますと、帝国書院ですと、37ページをご覧ください。

神奈川県に注目していただくと、先月開通しました圏央道ですとか、これから予定されておりますリニアモーターカーですとか、そういった路線が帝国書院の方には表記してありまして、相模原の子どもたちが知りたいというような気持ちに込めている工夫が、新しいものとしてされているというところが特徴としてあります。

大山委員 先ほど説明がございました等高段彩表現、陰影表現といったものが、帝国書院でこういった表現をしているということが、いわゆる国際的な地図の表記の仕方とか、その辺でどのような位置付けをされるのか、もしおわかりでしたら、お教えいただきたいのですが。

確かに、私どもの目にするというのは、多分こういった地図で、この方法に見慣れてると思うのですが。

小林委員長 帝国書院の等高段彩表現とか陰影表現が、国際的にどうなのかということ。

大山委員 位置付けですね。

小林委員長 後でも結構ですので、よろしく申し上げます。

田中委員 東京書籍の方はA4判でちょっと大きくて、紙も照りがなくて見やすいなと思ったのですが、等高段彩表現をされているというところで、こちらを見ても、山地と、高さ的には色分けをされているのではないかと思うのですが、その違いみたいなものがあるのでしょうか。

宮原学校教育課指導主事 例えば、全国にある、盆地というところがあるかと思うのですが、特に盆地の見やすさというところを、例えば、松本ですとか、諏訪ですとか、そういったところをご覧いただくと、その周りが山地に囲まれて、東京書籍ですと33ページ、34ページ、帝国書院ですと31ページ、32ページですね。盆地というものが子どもたちの中で認識されていないときに、一体どういうところなのだろうというときに、見たときに、例えば緑色のこの平地の部分と、周りが山で囲まれているこの茶色の部分というのを、濃淡ですとか、そういった土地の高さですとか、そういったものの見やすさと

いうところは特に特徴的に出てくるかと思います。

福田委員 あと、やっぱりこういう地図帳というのは本当に資料なのですが、地図だけのものではなくて、附帯の資料を見ていくときにとても活用されるべきものだと思うのですが、そういう点から考えてみますと、巻末によくある資料性という観点から特色があれば、お願いしたいと思います。

宮原学校教育課指導主事 資料につきましては、例えば東京書籍ですと、A4判というこの大きさをうまく活用しまして、豊富な資料の多さというところが特徴になっているかと思います。

一方、帝国書院につきましては、紙面的には小さいのですけれども、その資料がどこにあるのかという、この索引の使いやすさですとか、そういったところが特徴になるかと思っています。

福田委員 私としては、少し歴史的なことも踏まえながら資料ができていて、帝国書院の地図帳ですね。

小林委員長 歴史上の主な舞台になったところが地図上にあったり、横に年表がそろえてあったり、江戸時代の交通路がここに載ってあったり、そういう歴史との関連を意識した部分があるということですね。

福田委員 はい。

小林委員長 この東京書籍の、詳しく見る地図の範囲というのが出ていますよね。非常に子どもたちにとって、この部分はわかりやすいのかなと。関東地方と、太い枠で地図の中に、この部分だけはもっと拡大するよというのが指示してあるのね。そうやって縮尺がスケール表示してあるから、縮尺の見方は非常に東京書籍の地図は見やすいかなという感じがします。

そして、1つの場所を索引を使って探すとなると、途中で経線、緯線が、東京書籍は何となく見にくくなって見つけにくいのです。ところが、帝国書院の方は、比較的それが邪魔にならずに、それでしかもしっかりと目に見えてきて、経線、緯線が探しやすい。そんなふうに思うのですが、いかがでしょうか。

宮原学校教育課指導主事 索引を使って、例えば事例として地名を探したときに、この経線、緯線の存在はとても大きくて、今ご指摘のとおり、帝国書院の特徴としては、経線、緯線がこの地図の中で位置付けとして非常に見やすくなっているのが特徴かと考えます。

小林委員長 世界の地図ですが、アジア、オセアニアが1つ、ヨーロッパとアフリカが1

つ、それで南北アメリカ、全部4,000万分の1で統一されて、世界の地形の概要を非常につかみやすいのは帝国書院の地図かと思うのですが、東京書籍に関しては、縮尺を異なっているのではないかと思うのですよ。統一されていないのですね。その部分の問題点が何かあるようだったら、教えていただければと思います。

宮原学校教育課指導主事 紙面で一つひとつの地名を探するときには、縮尺の統一にとらわれず表現するということは、とても見やすいかと思えますけれども、実際の地球儀とか地球というスパンで考えますと、縮尺を統一しておかないと、例えば大陸間の比較ですとか、そういったところで子どもの誤解が生じるおそれもあるかと考えます。

小林委員長 この反転文字というのは見やすいですね、両者とも使っているのですが。白抜きで、歴史の舞台になった部分なんかはずっとこうなっているのですが。

あと、帝国書院のところでもう1つですが、大都市圏は50万分の1の縮尺で出ていますよね。さらにそこを、東京の中心部を10万分の1で表して、しかも同じ縮尺で江戸末期の様子を示して、さらにその横に東京の鳥瞰図が出ていて、さらに東京の島々が見渡せるようになっているのですね。非常にここは工夫しているなという感じがするのですが、地図学習の上で。

帝国書院について、皆さんはどう思いますか。

田中委員 この江戸と今の東京というところで比べられるというのは、すごく歴史学習には有効ですね。有効だなと思いました。

小林委員長 同じ縮尺なのですよ、しかも。

田中委員 そうですね。

小林委員長 それから、帝国書院の場合は、都道府県の分布図というのは非常に、4年生は使用頻度が高いのですが、一番最初に出ているから、ずっと広げることができるのですね。4年生の地図ではそれがすごく必要なので、使いやすいなという感じがいたします。

福田委員 私は世界地図で、今、国際化ということもあるし、どんどん外国に行く子どもたちもいるときに、アジア、オセアニアという地図がいいなと思ったのですが、こちらの東京書籍の方にはアジアとオセアニアが別個になっていて、距離間とかがわかりにくいですが、帝国書院の53ページ、54ページの地図というのが、オーストラリアとの地理的関連性みたいなことが結構わかりやすくなっていますね。

田中委員 同じ経度なのですよ。

福田委員 ほとんど緯度的には変わらないというようなこととか、あと、ミクロネシアの

関係とか。結構、サイパンの方にも出かける子どもたちがいるのだけれども、日本との関係で捉えたりということはあまりできない感じなのですよ、今までのもので見ますと。なので、太平洋が丸ごと見えるというのは、良いと思います。帝国書院の方が、そういった国際関連性というようなところも、視野に入れながらつくられているのかなと思いました。

あとは、どんな国があるかなといったときに、地図で見るよりも下に国があるなという、そういう親和性みたいなことが出てきて、例えば世界中に国がどれくらいあるとかを聞いても、実際200近くありますが、大学生ぐらいになっても、実はあまり知らないのですよ。そういうことを地図と、国旗というような、いろいろな角度から見ていって、こういう国があるなという定着度というようなところも工夫されているように思いました。

田中委員 今の国旗のところ、確かに東京書籍の方でも巻末に全体地図と、あと国旗があって、一目でわかるという感じがするのですけれども、確かにどの部分にどういう国があるのかというのが、帝国書院の方では細かく部分部分で国旗が出ているというところでは、こういう国旗がこの国だということで、割と系統的な部分もありますよね。今までの歴史の中で、ここからこういうふうに分かれたのだ、この国旗が似ているとか、そういうのもすごく比較しやすいのかなと思いました。

あと、その中で各国のいろいろな習慣ですとか、お祭りですとかの写真がそれぞれについているというのが、またいろいろな国でこう過ごしているのだなというのが見えるというのはおもしろいかもしれないですね。関心を持ちやすいのではないかと思います。

小林委員長 非常に多岐にわたってご指摘、あるいは感想、好みも若干含まれながら意見を出されましたけれども、そもそも社会科における地図帳の本来の役割という点から見まして、やはり地図帳を活用して、地形や土地利用の様子を読み取ると、これがまず大事だと思うのですね。それを通して、先ほど報告にもありましたけれども、自然環境や産業との関連を考察したり、あるいは地域の結びつきを深めるなど、いわゆる地理的環境を認識しながら学習活動を展開するのだと。それが本来の地図の役割かなと私は捉えます。

それで、帝国書院も東京書籍も、地図帳を初めて手にする子どもたちにとっては、地図の読み方だとか地図の約束事等が非常に両社とも力を入れて、丁寧に編集されているので、これから学習する意欲づけにも、理解のしやすさも手伝って、学びを支えることになってくるのではないのかなと、そんなふうに両者とも思います。

それで、東京書籍は、統計資料の見やすい提示、特に非常に豊富な写真資料が多いのです。

それから、索引もかなり充実してまして、2,000を超える項目をそろえております。ですから、これは学習の整理には非常に役立つのではないかなと思います。そして、それらがまた地域に合わせてバランスよく掲載されていて、資料活用の便利さも子どもたちには提供できることになっているのではないかなと思います。

また、これもありましたけれども、日本列島の連なりと海洋の様子、これが3広がりでは一っと広く出ているのですが、日本を取り巻く海洋の広がりが非常によくわかる、インパクトな写真は、やっぱり子どもたちの学習意欲にも結びついてくるのではないかなと思います。

それから、帝国書院は、何回も出てきましたけれども、等高段彩表現や陰影表現で、非常に国土の全体像を明確に捉えやすい。そういう表現方法を駆使して、土地の高低だとか、地形や土地利用の様子を子どもたちは読み取りやすくなっていくのではないかなと思います。

それから、地域ごとに取り上げられている部分図が、非常に帝国書院は多いですね。

それから、索引は同じように、やっぱり2,000を超えた項目があって、これはよく両者とも似ているところなのですが、特に特徴的なのが、項目ごとの地図資料が非常に多いのです。50個を超えているのではないかなと思います。この資料から、やはり自然環境と産業の関連というのは、非常に考察するのに意味があるのではないかなと思います。

それから、先ほど出ましたけれども、歴史年表、あるいは歴史上の主な舞台が地図帳に記されていて、地理と歴史の連動資料がセッティングされております。これは、6年生になって、上巻で歴史の学習が始まりますけれども、これは非常に役立つし、強いてはその先には、本格的に中学生になると、地歴並行の学習が展開されるわけです。それにも非常に意味があるのではないかなと、そんなふう感じております。

それから、3年のところで町探検の体験をして、4年生、5年生といくわけですが、それまでの体験で得た知識、技能を生かしながら、防災マップづくりをする際、地図帳の一番後ろにそのことが載っているんですね。非常に系統性、一貫性として、私は評価できるのではないかなと思っています。

そんな意味を考えると、地図を自在に活用して社会科学習を展開するには、より適しているのは帝国書院の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」かなと考えるのですが、いかがでしょうか。皆さんの意見もいただければと思います。

(「なし」の声あり)

小林委員長 「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」を採択することによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議がございませんので、地図については、帝国書院の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」を採択することにいたします。

それでは、ここで休憩といたします。午後1時に再開いたします。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(休憩・11:50～13:00)

小林委員長 それでは、再開いたします。会議を続けます。

それでは、算数の説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、算数の報告をさせていただきます。

算数は、6者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力や判断力、表現力を育み、活用する力を伸ばそうという今日的な教育課題に対応することを意図した工夫が見られました。

子どもにとって学習過程がわかりやすく、適度な問題数であり、子ども自ら問題に取り組んだり家庭学習をしたりしやすい教科書であるか、様々な算数的な活動が盛り込まれており、思考力、判断力、表現力を育む上で重要な多様な考え方、解き方が提示されているかという面から検討し、東京書籍「新編 新しい算数」と、学校図書「みんなと学ぶ 小学校 算数」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、基礎・基本の定着を狙い、スパイラルによる学習活動を可能にする流れを意識して、振り返りコーナーを設けております。これにより、新しい単元に入る前に、それまでに学習したことを簡単に振り返り、既習事項を踏まえて授業を展開したり、子ども自身が自らの力で学習内容を確認したり、調べたりすることができるようになっております。また、考えよう、伝えようというページを設け、子どもの多様な考え方や表現の仕方を提示することで、子どもが思考方法や表現方法を学ぶことが可能となっております。さらに、ノートづくりについて、発達段階に即した表現方法を提示し、段階的に思考力、判断力、表現力を養うことが可能となっております。

次に、学校図書でございますが、基礎・基本の定着を意図して、単元の導入時に学びの準備を設け、週末では学習したことを振り返ることができるような工夫がされております。また、思考力や判断力、表現力を育むことを狙い、算数でよく使う考え方を設け、算数の学習過程で重要な類推、帰納、演繹の考え方を具体例を使って示しております。これにより、子どもにとって思考の足がかりができ、新たな課題に対しても考えるきっかけを持つ

ことが可能となります。ノートづくりにつきましては、6年生でレポートの書き方へと発展させております。これにより、他教科との関連を図ることができると考えられます。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。これより協議のための質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

福田委員 算数で、今回の改革というところでは、大きな期待が寄せられているかと思うのですが、本市の算数に対する課題と申しますか、いろいろ学力テスト等の問題もあるかと思っておりますけれども、やはり本市の子どもの学力ということを考えていくときに大事な点ということがあれば、教えていただければと思います。

川邊学校教育課指導主事 本市の子どもの実態を考えますと、まず基礎的、基本的な知識や技能の定着を図ることを大切にしたいと考えております。どの者におきましても、基礎・基本を大切にしたい工夫がなされております。中でも東京書籍は、導入や問題を解く場面で既習事項を振り返りやすくしたり、考えるときの手がかりを丁寧に示したりしております。5年生の割合や単位量当たりの大きさなど、本市の子どもにとって課題が見られる学習内容が丁寧に示されているということで、基礎的、基本的な知識や技能の定着が図られると考えております。そのほか、振り返りコーナーや補充の問題を活用することによっても、基礎・基本の定着を図ることができると思います。

大山委員 そのほかに大事にしたいことに関して、ございますでしょうか。

川邊学校教育課指導主事 そのほかには、活用に関することになってくるのですが、多様な考え方や表現の仕方を学び、基礎的、基本的な知識や技能を活用する力をつけたいと考えております。

本市の子どもの課題に対しての指導における改善点としまして、言葉や数、式、表、グラフなどの表現を関連づけて考える活動の充実が挙げられております。その点を考慮しますと、東京書籍にございます、考えよう伝えようは、多様な考え方を提示して、友達の考えを説明するという活動を取り入れております。言葉を大切にしながらも、数、式、図、表など多様な方法を用いて表現する方法を示していることで、基礎的、基本的な知識、技能を活用する力の育成を図ることができると考えております。

福田委員 そういうことで申しますと、その基礎・基本の定着ということとあわせて、言語活動の充実というようなこともあわせながら新しい改革と申しますか、そういう場面が充実しているということによろしいでしょうか。

川邊学校教育課指導主事 そのように考えております。

田中委員 先ほど算数的な活動が盛り込まれておりという、課長からの説明があったのですけれども、各者どういうところに算数的な活動が盛り込まれていると思われませんか。

川邊学校教育課指導主事 各者とも、やはりそこは学習指導要領で示されていますので、意識して内容に盛り込まれております。実際の生活に戻すということで、東京書籍では3年生の1キロメートル当たりの時間や歩数を調べる活動とか、あと、5年生で円周率の確認をするために実際に校庭に出て、円周率を確かめるという活動が組み込まれております。なので、こちらにつきましては、どの者も工夫はされていると考えております。

福田委員 基礎・基本に課題があるということの中で、少し子どもたちのつまずきというようなことを意識して指導していくときに、工夫されている教科書について、何かあれば教えていただきたいと思います。

川邊学校教育課指導主事 子どもたちのつまずきに関しましては、やはり1時間1時間、丁寧な学習過程が必要だとは考えております。そこで、子どもにとってわかりやすい教科書ということが大事ではないかと検討委員会でも出されました。それで、1時間の中で問題の提示、目当てを持って、それから考える手がかりやまとめ、練習問題という1時間の流れがわかりやすい教科書がよいのではないかとということで検討されました。

小林委員長 この基礎・基本の問題なのですが、学校図書では各学年のスパイラル学習の基礎として、3年の上になるのですが、倍の計算というのを、テープ図を使った問題があるわけですね。これがちゃんとスパイラルに上がって行って、5年生から比例の関係に生かされてくるシステムになっているわけですね。

同じような発想が東京書籍にもあるのではないかと思います。5年生の比例を単元化することによって、小数の計算など、以後の学習が比例を活用して工夫されると。これもかなり基礎・基本のスパイラルを意識した編集というのは、基礎・基本の充実に役に立つのではないかと思います。その辺はいかがですか。

川邊学校教育課指導主事 今おっしゃられたとおりで、東京書籍でも2年生から倍と掛け算、3、4年では倍の計算がありまして、4、5年に2本の数直線図の意味や書き方の提示がしてあります。

ほかの者につきましても、2本の数直線の提示はございますが、低学年からそのように意識をさせていくということは、基礎・基本の力がつくことにもなると思いますし、同時に思考力の育成にもつながると考えます。

大山委員 先ほど福田委員からお話が出ましたけれども、算数とといいますと、かなりクラスの中で、基礎の習得とかその辺に差が出る、できる子はかなり進んでしまうのだけどもという実情が多分あると思うのですよね。もし仮に、かなり基礎を超えて進んできたお子さんに対しては、どんな形で教科書を選ぶかという視点から見て、どんな方法を取り得るとか、例えば今挙がった2者の中で差があるかどうか、この辺をお伺いしたいのですけれども。

川邊学校教育課指導主事 2者とも非常に工夫されておりまして、学習進度が進んでいるお子さんにとりましては、最後の方のページでサポート、補充、発展という、2段階や3段階を考慮して示されておりまして、1時間の流れの中の問題が終わったら、後ろの方のページに、すぐに行って、どんどん解いていくという実態もございます。

それから、各学校ではワーク、教科書とあわせてドリルのようなものも使っておりますので、さらに進んでいるお子さんについては、そちらの方で対応することができると考えます。

田中委員 どちらも甲乙つけがたいのですが、ノートづくりについてというところで、先ほどご説明があったと思います。特に学校図書については、レポートの書き方への発展となっていましたが、そのノートづくりの観点から見て、どうでしょう。

川邊学校教育課指導主事 ノートづくりにつきましては、ここが一番、東京書籍のノートづくりとの差が出ているところではないかと考えておりますが、1年生の下巻から、全ての教科書にノートづくりが示されておりまして、1年生の下巻では、本当に基礎の基礎のところ自分の考えを書くということが載っておりますが、それ以降の教科書につきましては、それぞれ少しずつ項目を増やしていきましたり、友達の考えのよさというのをたくさん挙げられております。それを見て子どもたちも、こういう考えもあるのだなとか、こっちの方法で解いてみようということが見つけられると思いますので、そこが、特徴がよく表れているところではないかと考えます。

小林委員長 算数ノートをつくらうというのは、東京書籍と日本文教出版に載っていますよね。これのちょっと比較論評はいただけないかなと思います。

福田委員 学校図書についても多少そういうことがあるかと思っておりますけれども。

小林委員長 学校図書に出ていますか。日本文教出版で1つありますね、算数ノートをつくらうという。

川邊学校教育課指導主事 ノートづくりにつきましては、どの者も触れてあります。

その中で発達段階に応じた提示をしてあるのが、東京書籍だと考えております。

小林委員長 今、基礎・基本という話があったけれども、学びの多様化という視点でいいますと、啓林館の2年生以上にわくわく算数学習というのがありますよね。それともう一つ、3年生以上に算数実験室、これが非常におもしろいのですね。例えば、マンホールのふたの丸いわけをいろいろな形で調べてみよう、実験していくのですね。そんなのが入っているのですが、こういう多様化というのは、本当に私はこの啓林館の良さかなと、しっかりとその辺を主張しているなど思うのですが、いかがでしょうか、皆さん。

田中委員 本当にすごくいろいろと網羅されていて、本当に発展という意味では、やはり教科といえ、生活に根づいているというところで、いろいろな資料がそれぞれ算数に関するものに入っているなどお見受けしました。

東京書籍の方でも、今見たのが6年生なのですけれども、新幹線を使っての数値の変化ですとか、それをもとに問題を掲載されていたりとか、本当に各者いろいろ工夫されて、算数が生活の中に入っているよということを示されているなどすごく感じました。

学校図書の方でも、例えば地図から実際の距離を知ろうとか、本当にいろいろな教科との関連性を絡めた問題が算数の問題として掲載されているなど思いました。

福田委員 私自身もいろいろ比較検討をいたしまして、先ほどいろいろ議論もあったように、まず基礎・基本ということですね。それと、広げていくというか、いろいろな多様な考え方、表現というようなところへの目配り。それともう一つは、新しい指導要領の中で特出されました算数的活動、ちょっとわかりにくいものだけれども、そのところを非常に身近で、かつ生活上の課題、例えば、ごみの減量をどうしたらできるかとか、先ほど新幹線の話もございましたが、震災の経験をどう生かすのかというようなことを、算数の目で見えていくという、また、算数を具体的に使うと、どういうことが可能なかということですね。そういう発展的な課題にまで持っていくという点。それと同時に、教える方の教えやすさと、学ぶ方がしっかりとノートをつくっていくことによって、算数的な考え方から数学へと向かう発展的な発達段階を踏まえたノートづくり、そういうような幾つかの点で、東京書籍の「新しい算数」というのがすぐれているように思いました。

小林委員長 ご意見はございますか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 今、福田委員の方で概要をまとめていただきましたけれども、それによりますと、東京書籍の「新しい算数」というご意見が出ました。いかがでしょうか。採択する

ということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 異議がございませんので、算数については、東京書籍の「新編 新しい算数」を採択することにいたします。

続いて、理科に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、理科の報告をさせていただきます。

理科は、6者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、各者ともに理科の学びの特徴である問題解決の学習過程が重視され、内容、表現が工夫されております。

本市においては、子どもの日常生活の中で学習の基盤となる自然体験や生活体験が減っていることから、具体的な体験である観察、実験を充実すること。主体的な問題解決を通して、実感の伴った理解を図ることを重視して検討いたしました。

その結果、東京書籍「新編 新しい理科」と、啓林館「わくわく理科」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、問題解決の過程を緑のラインで見やすく示し、各過程のタイトルを大きな文字で表記しており、問題から考察までの流れが簡潔にまとめられているため、問題解決の過程がわかりやすく、学習の進め方が身につけやすいものとなっております。また、巻末、理科の調べ方を身につけようのコーナーでは、ノートの書き方、話し合いの仕方、観察、実験器具の使い方などがまとめられているため、必要に応じて振り返りながら、学年の発達段階に応じた理科の学び方が習得できるようになっております。

次に、啓林館でございますが、単元の導入部分において、子どもの具体的な体験活動を充実させることで、身近な自然とかかわりながら、子どもたちの多様な気づきや疑問を引き出し、そこから子ども自身が問題を見出す学習活動が展開できるものとなっております。また、その見出した問題に対して、予想や仮説に基づいた観察実験方法を考えることで、見通しを持って子ども自らが検証し、関心や意欲を持続させて、より主体的な問題を解決する学習が展開できるような工夫がなされております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。質疑、ご意見ををお願いいたします。

大山委員 主体的な問題解決の学習を進めるに当たって、この2者での工夫について、2者での特徴とか、何か違いについてご教示いただきたいのですが。

久保学校教育課指導主事 まず、東京書籍でございますけれども、問題解決の学習過程において、適宜、問題をつかもう、予想しよう、計画をしようといった場面を設定して、子ども自らが進んで考え、見通しを持って主体的に学習が進められるよう工夫されております。

啓林館につきましては、単元の学習のスタートの段階で、実生活に結びついた体験活動を意図的に取り組むことで、子どもが自然の事物現象に関心、意欲を高めて、問題意識を調整して、より主体的な学習が展開できるよう工夫されております。

小林委員長 本市では、3年生以上ですかね、観察、実験のアシスタントの非常勤の先生を採用しており、理科の授業には非常に実験観察というのが重要な位置を占めていると思うのですが、それとの関連はいかがでしょうか。

久保学校教育課指導主事 本市については、理科の授業で観察、実験の充実や子どもたちの思考力を育むための目的として、観察実験アシスタントを配置させていただいております。

特に、その2者の教科書とのかかわりですけれども、東京書籍につきましては、巻末の理科の調べ方を身につけようという部分で、非常に理科の学習で役立つことがまとめられているために、そのアシスタントの方にも教師と同様の共通な視点で、子どもへの支援や助言ができると思われまます。

また、啓林館の方のやってみよう、つくってみようなど、観察、実験やものづくりという部分が豊富に紹介されているため、各学校の環境や子どもの実態に応じて、それぞれ助言、支援がしやすいようなつくりになっていると思われまます。

田中委員 今、観察実験アシスタントということで、本市の特徴的な話が出ましたけれども、実際に本市の子どもたちの理科の学習状況というか、そこでの課題というのは何かあるのでしょうか。

久保学校教育課指導主事 先ほど課長からもお話しさせていただきましたが、やはり理科の学習を学ぶ上で、子どもたちのそういった今までの学習体験や生活体験という部分は、非常に大きなウエイトを占めます。そういった中で、やはり社会的にそういった自然に触れる機会とかが減っている中で、子どもたちのそういった部分というのを、より多く気づきや体験をさせていく必要があるのかなと感じています。そういった意味で、より多く、

たくさんの機会を、実験や観察に触れたりとか、多くの考え方をさせようという取り組みというのが大切になってくると考えております。

福田委員 本市では、そういう体験の場ということで、若あゆ、やませみというようなことを非常に大事に扱ってきているかと思うのですが、そうしたものと、やはり理科の教材を生かしていくような、そういう働きかけもなされているかと思いますが、そういう観点から見たときに、教科書の特色として生かしやすいというような観点から見たときに、いかがなのでしょう。

久保学校教育課指導主事 先ほどお話のあった若あゆとかやませみですけども、やはり自然体験が非常に充実していますので、子どもたちはそこで普段の学習の生活の中では得られないものを、十分充実してできるような形になっています。

教科書との関連については、それぞれ巻末に資料の形で、いろいろな観察ができるようなガイドブックであったり、資料が豊富にそろっていますので、そういった部分では、他の教科書も活用という部分では、同一な形でできるものかと考えております。

小林委員長 理科の実験とか、あるいは観察に、どの学校にもある材料だとか、用具だとか、手づくりの教材、それを用いた学習を展開しているのが信州教育出版社なのですね。実験の数も、ほかの出版社より倍近く多いのですよね。非常に実験を重視されて本をつくられているのですが、この手づくりだとか、そういう教材を用意できるというのは、信州ならではなくて、相模原市でも十分可能かどうか、その辺はいかがですか。

久保学校教育課指導主事 信州教育出版社ですけども、今ご指摘のあったように、かなり手づくり教材については豊富に取り扱っていると思います。ただ、例えば空気の働きを調べるときに、空気鉄砲とか水鉄砲を実際につくるのですけれども、その教科書の中では、身近なもので竹を使ってやってみようなんていうこともあって、なかなか本市で実際に活用するというのは難しい場面もありますし、おそらく、長野というか、信州の地域性を生かした教材というものを多く取り上げておられるので、そういった部分では、少し扱いづらい部分もあるかとは思いますが。

小林委員長 本市では扱いづらい部分もある。

久保学校教育課指導主事 はい。

福田委員 相模原の地ということだと思いますと、ぜひJAXAとの連携とか、いろいろな意味で宇宙へという新しい課題にどんどん進んでいくような学びを開発していただきたいところなのですが、宇宙との関係というところに広がっていく教科書の取り扱い

でいいますと、どういうことが言えますでしょうか。

久保学校教育課指導主事 今、2者挙げた中で、特に啓林館の方は、6年生の中で、日本の科学技術ということでJAXAの取り組みがかなり多く紹介されております。

本市といたしましても、宇宙に関する学習ということであれば、特徴的なものとして、やはり4年生の校外学習で市立博物館に訪問して、プラネタリウム等を使って星や月の学習をしております。それから、5年生では先ほどの若あゆ等で、学校では実際に観察しにくい星とか月の観察を実際にできたり、大型の望遠鏡を使ってそういったものができたりということで、学習の学びが広がったり、深まるような取り組みが図れるかと思われま

福田委員 先ほどの話は、このはやぶさのところの指摘なんかを指してくださっているわけですね。

大山委員 少し論点を変えます。理科というのが、やはり好き嫌いというか、その辺の差が出る科目だと思うのですよね。その中で、今回、教科書を閲覧いたしまして、学校図書には、表紙や裏表紙に科学者の写真だとかメッセージが紹介されている、これもいい企画かなと思います。

もう1つは、今度、理科というよりも科学を始めるといふ点について、どのような視点で紹介するか、こういう昔の科学者だとか、名前もほとんど初めての人というよりは、今ある1者では、現在活躍している科学者が直接言葉でもって、科学はいいよ、こういう疑問を持つとこういう理科が発展するよという、科学的なそういうことに興味を持つような発行者がございました。それは非常にいいことではないかなと、これは意見でございます。

小林委員長 そういう意味でだと、啓林館の科学の目で見よう、科学実験ができる、科学的実験ができる工夫があって、科学の目というところで、みんなが納得できるような実験をするためにどうしようというのが、あまり関心のなかった子どもたちを引きつけるのにも非常にいいのかなと、啓林館の工夫は評価したいと思います。

田中委員 今、委員長がおっしゃられたように、その各単元の導入の部分での子どもたちへの投げかけ方というところで、私も委員長と同じような考えで見させていただきましたが、本当に子どもたちがまず自分たちの身近なことから話し合ってみようというような投げ方を啓林館の教科書の方がされていますね。それから、ではどういうふうなことを調べていったらいいかという形に実験を持っていっているというところでは、とても適しているのではないかなと思いました。

福田委員 先ほど田中委員からもありましたように、やっぱり身近なところですね。身近

な生活から科学へということで、科学的な考え方というところに導けるように、身近な課題を教科書の科学的な視点につなげていくという配列でいいますと、啓林館のものが、そういう取り扱いが多かったように思いました。

田中委員 私もそう思ったのですが、先ほどの説明の中で、東京書籍でノートの書き方というところとかが出てきたのですけれども、やっぱり理科もノートの取り方はすごく大事だと思うのです。そういう意味で、この2者を比べたときに、どういうところが特徴的か教えていただきたいのですけれども、両方とも出ていますよね。

久保学校教育課指導主事 東京書籍の方は、先ほどお話があったように、後ろの方に毎学年、ノートの書き方ということで、常に振り返ってどういったポイントでまとめていけばいいのかというのが示されています。

啓林館の方の特徴としましては、それぞれの単元が終わるごとにまとめといったページがありまして、そこで手書きのような、子どもたちがわかりやすい、どんな形で自分の学習をまとめたらいいいのかという部分が表示されています。

そういった意味で、違いはそれぞれ特徴として表れているかと思います。

小林委員長 理科の学び方というところで、大日本図書なのですが、3年生で、比べながら調べよう。4年になって、関係づけながら。5年になって、条件をそろえる。6年は推論して調べよう。こういう形で学習スタイルを続けているわけですが、それでさらに発展的なところで、理科の玉手箱やジャンプで、発展的な資料として出されている。

一方、教育出版の方は、3年から6年まで統一して、はてな、調べよう、わかったと、学年ごとに条件や変化に着目している。それで、同じように最後は推論しながらと、学習スタイルをやっているわけです。この辺は、やっぱり問題解決学習としては非常に大事な部分かなと、私は理解しているわけですが、いかがでしょうか。

久保学校教育課指導主事 今お話にあった、それぞれの各学年での比較しようとか条件を比べてという部分については、やはり問題解決の能力として非常に大切な視点であると考えております。ですので、やっぱり問題解決を、過程を通して学習を進めるという理科の学びにとって、その学年で何が一番大事なのかという部分をしっかりと押さえながら、次の学年に上がり、その学びを深めていくという部分で大事になっているかと思います。

小林委員長 ですから、啓林館だと問題と結果と考察が別の見開きページに行っているのですよね。これはもう、間違いなく実験、観察の必要性が上がってくるし、問題解決をやりながら結果が後ろ側へ来ているわけですね、次のページ。この辺も非常に、1つの工夫

かなと思います。

田中委員 啓林館の方では、「わくわく理科プラス」という冊子が各学年でついているのですけれども、こういうものの活用の仕方として学校では、もしこういうものがあつた場合は、どういうふうに活用されようと思っているのですか。

久保学校教育課指導主事 今回からその「わくわく理科プラス」というものが別冊で附属されるような形になりました。これは、学習の单元ごとに、それぞれ学習のはじめと、それから学習の終わりに、それぞれ子どもたちが振り返ったりしながら書き込めるようなものになっています。授業の中で、必ずこれを使わなければいけないというものではないので、先生方の指導のプランに沿って、例えば、場合によっては家庭学習を使ってやったりとか、宿題にしてとかということで活用も考えられるのではないかなと思います。

あと、やはり子どもたちにかなり書かせることを意識して取り組まれているので、思考、表現という部分で、その育成という部分でも活用が図られるのかなと感じています。

田中委員 そういう意味では、言語活動の充実というか、言語活動につながっていくと考えてもよろしいのでしょうか。

久保学校教育課指導主事 なかなか授業の中で、この部分というのは非常に時間が限られた中で取り組むので、十分できない部分ではあるので、そういった部分で、言語活動の充実という部分では、より深まっていくのではないかなと考えられます。

大山委員 理科の学びの特徴であります、問題解決を実現する授業づくりということで、そのためには身の回りの事物、現象に親しむ中で、一人ひとりの思いや願いを大切に、学習を進めることが大切であります。その意味で、単元導入時には、問題意識が芽生える活動を充実させまして、子どもの多様な見方、考え方を引き出し、子どもの思考の流れに沿った観察、実験が展開しやすい啓林館の教科書が適しているのではないかと考えます。

この教科書を使用することで、より主体的な問題解決の授業が実現できるものと考えます。

小林委員長 大山委員の方から、啓林館というお話がございました。今までの意見交換、あるいは協議の中で、ご意見がございましたら、お願いしたいと思います。

(「なし」の声あり)

小林委員長 では、ありませんので、理科については、啓林館の「わくわく理科」を採択するというご意見がございましたら、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、理科については、啓林館の「わくわく理科」を採択することにいたします。

続いて、生活に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、生活の報告をさせていただきます。

生活は、8者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、各者とも小1プロブレムに対応した内容を充実させております。また、多様な表現方法を紹介したり、伝え合いの場面を多く取り入れたりするなど、言語活動の充実に向けて配慮がなされております。生活科では、具体的な活動や体験を通し、自立への基礎を養うことが目標とされ、中でも気づきの質を高め、活動や体験を一層充実させるための学習活動が重視されております。

本市では、自然環境に恵まれ、若あゆ、やませみ等の体験施設が充実しております。また、市街地も多く、社会環境も多様でございます。本市の地域性にあった活動や体験が示され、子どもの気づきを深める工夫、多様な表現方法が多く紹介されていることなどから、東京書籍「新編 新しい生活 ときどきわくわく あしたへジャンプ」と、啓林館「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」「せいかつたんけんブック」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、幼保小のつながりが十分に意識されており、入学当初の学校生活の様子がわかりやすい写真で紹介されております。子どもは、具体的なイメージを持ちながら、学校生活の基本について確認していくことができます。また、草花等が実物大で紹介され、子どもの生き生きとした学びの表情を捉えた写真が多数掲載されているなど、学ぶ意欲を喚起する工夫がなされております。

次に、啓林館でございますが、単元の終わりに詩とイラストが掲載されており、心情面から学習を振り返ることができ、豊かな人間性を育む上でも効果的であると考えられます。また、生き物の誕生と死を扱っており、命の大切さを実感できます。別冊の「せいかつたんけんブック」は、持ち運びしやすいA5判のサイズに、実物大の写真や野外活動における留意事項など、必要な情報をわかりやすくまとめられております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。質疑、ご意見がございましたら、お願いいたします。

大山委員 気づきの質を高める工夫ということで、2者、評価されておりますけれども、

その後、より高める工夫として、2者での比較検討した採択検討委員会での結果も含めまして、ご意見をお伺いしたいと思いますが、お願いします。

檜木学校教育課指導主事 気づきの質を高めるということについてでございますが、学習指導要領では改善の具体的事項としまして、その気づきの質を高めるということが言われておるのですが、例えば、見つける、比べる、例えるなどの多様な学習活動ということが言われております。その中で、両者ともキャラクターが子どもに活動の中で投げかける場面があったりして、そのような比べたりするということを引き出すような工夫がされております。これにつきましては、啓林館、東京書籍、どちらとも非常にすぐれておりまして、子どもたちの気づきの質が高まるような工夫がなされていると検討委員会でも報告されております。

小林委員長 啓林館の教科書を見てみまして、やはり生活という領域の最も大切なことかと思うのですが、覚えるのではなくて、考え出す楽しさに気づくきっかけになる内容が非常に多く入っているということと、一方的な知識の伝達ではなくて、あるいはまた何々しようとする指示的なマニュアル本でないというところはいいかなと感じました。

それから、東京書籍も、例えば、おもちゃ図鑑のところがあるのですが、「パッチンガエル」だとか、「とことこカメ」ですとか、「ぴょんウサギ」なんかのおもちゃがあるのですが、これも随所に気づくような問いかけがありまして、気づきの質の向上にもやはり役立っているのかなと理解したのですが、同じようで、今度は、信州教育出版社と日本文教出版が同じようなスタイルになっているのですね。

信州教育出版社の方は、地域に根差した教材を大事にしながら直接体験をやっているのですが、その中で「やまかわまこと」君と「ながのさところ」さんという2人の子どもを生活ドラマで描くふうにして、ずっと述べているのですね。

同じように、日本文も上巻下巻、それぞれ主人公を設定して、両方とも非常に感情移入できるようなシステムになっているので、この点もそれぞれの教科書のよさかなと私は見てとりました。

福田委員 気づきからということで、いろいろな工夫が各者なされております。その中には、学校図書なんかでも発見カードとか、カードについてはいろいろなところで使っておりまして、啓林館などもカードを使って、気づきからそれを言語化していくというような、そういう仕組みが工夫されておりまして、特に私はその気づきについての工夫では、学図と啓林館のものを評価したのですけれども、啓林館については、そのカードから、それを

いろいろ比較して、1冊にファイル化したりとか、かるた化したりとかというようなことで、みんなで協力し合って、それについて伝え合うというような広がりというものが見られたというところで、ちょっと一歩進んでいるかなという感想を持ちました。

田中委員 先ほど啓林館の方で、「せいかつたんけんブック」というのがついているというお話がありました。これ、本当に使いやすく、よく考えられていると思うのですが、また一方で、東京書籍の方でも巻末に「ポケットずかん」というふうについていますね。こういうものの活用の仕方として、どういうスタイルがいいのか。現場で子どもたちがどういうふうに使って、どういうものが使いやすいのかというのを、ちょっと現場の先生の声としてあれば、教えていただきたいのですけれども。

檜木学校教育課指導主事 啓林館の「せいかつたんけんブック」、これは新しいものなのですけれども、現行の教科書でも「せいかつめいじんブック」ということで使われていますが、生活の授業の中で自然のものを探しに行くために野外に行ったり、あるいは町探検等、出かけたりする中で活用されているのはもちろんのこと、中休みの時間でありすとか、昼休みの時間でありすとかにも、子どもたちがそれを持って校舎の隅の方の花壇とか、そういうところを見て、使っているということを聞いております。

今回の新しく改定されたものにつきましては、さらに外での活動に特化された内容になっており、穴なども開いていまして、首からぶら下げて持ち運びができるようにということで、これは非常にいいのではないかとということで、調査員の中でもそういった声が聞かれました。

田中委員 大きさ的には、やはりこういうものが使いやすいということによろしいでしょうか。

檜木学校教育課指導主事 そのとおりであると報告を受けております。

田中委員 確かに、自然の事物だけでなく、安全・安心というところに関しても、震災とか、そういうことに関しても入っているということでは、子どもたちが身近に置いておいて使いやすいものではないかなと私も思いました。

あと、啓林館と東京書籍の方で、種からどういう芽が出て、花が出てというのは、同じような構成でページを変えて順番に見られるように、どちらも工夫されているなと思いました。

その中で、やはり、もう1つ、私、教科書の中で気づいてしまったことがあったのですけれども、どの教科書も春夏秋冬という、絵で違いを表しているのはたくさんあるのです

けれども、実は啓林館の春と夏と秋と冬で同じ、これ、桜の木ですか、同じ木の同じアングルでの変化というものが載っていて、これを見ていると、実はもっとおもしろい気づきがたくさん出てくるのかなと感じました。

最終的に、また種をとって、芽が出て、育てた花から種までとるのですけれども、その後、やはりまた種がこれだけできたよという、1つからこんなにできたというところの広がりですとか、そういう意味で本当にわくわく感が、啓林館の「わくわくせいかつ」を見せていただいたときに、私自身が大変わくわくしてしまいまして、これはおもしろいなと感じました。

福田委員 今、本当にホットな話題にもかかわるのですが、身の安全ということについてですね。ちょっと、今、絞られてきましたので、東京書籍と啓林館とで見ましたら、安全にかかわるところが、東京書籍は上の112ページ、113ページというところに出ておまして、啓林館は巻末に安心・安全ということで132ページ、133ページに出ております。その中で、今、本当に気をつけなくてはいけない、知らない人と話さない、車に近づかないという、ここまで書き込んであるというのは、啓林館の方がより詳しく、本当に今日的な課題にもかかわってくるかなと。やっぱり目配りが深いというか、そういう点が、1つ取り上げましたけれども、より深く書かれている部分があるように思いました。

田中委員 すみません、教科書からは少し離れますが、やっぱり悲しい世の中ですね。知らない人から道を聞かれても、この辺の子どもの判断というのはすごく難しいと思うのですが、でも実際に、大きな事件になっているところでは、こういうところがまだ判断のつかない子どもたちには大事なのかなと私も思います。

小林委員長 安全というところですね。

田中委員 安全ですね。残念ですけれども。

小林委員長 その辺の生活科の基本になる、基盤づくりである5本の柱があるわけですが、それはそれぞれの教科書はみんな、形を変えながらも全部掲載されていると私は認識していますが、なっていますよね。

田中委員 そうですね。どちらもあります。

大山委員 では、私の方から意見を述べさせていただきます。

初めて小学校へ入って学ぶ生活ということで、やはり相模原の子どもたちには自由な発想で気づいてほしい。それから、教室でも、先生もそのような子どもたちの自由な気づきを引き出すような授業をすることが望ましいと考えております。一方的な伝達ということ

よりは、むしろ啓林館で示されたこと、こんな場面でどんなふうにするかを考えさせるような形ということが、非常に大事なのかな。

多分、いろいろな面で2者を比較すると、論点はかなり絞られてくると思うのですね。その意味で、啓林館のこの場面でどんなふうにするかを考えさせる形というのは、相模原の子どもたちにとって有利ではないかと。それゆえに、啓林館の教科書を推薦いたしたいと考えます。

小林委員長 今、啓林館を推薦というお言葉が出ましたけれども、いかがでしょうか。

福田委員 よろしいかと思えます。

田中委員 いいと思えます。

小林委員長 ご意見はよろしいですか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 ありませんので、生活については、啓林館の「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」「せいかつたんけんブック」の3つをあわせまして、採択することでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 異議ございませんので、生活については、啓林館の「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」「せいかつたんけんブック」を採択することにいたします。

続きまして、音楽に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、音楽の報告をさせていただきます。

音楽は、2者から教科書が発行されております。両者に共通した特徴といたしましては、音楽を形づくっている要素や音符、記号などの共通事項を支えとした題材の構成がなされ、音楽づくりや鑑賞などを通し、思考力、表現力を育むよう内容が工夫されております。

本市の全ての学校で、子どもが音楽の支えとなる共通事項を身につけ、思いや意図を持って主体的に音楽を楽しむことができるようになることを重視し、検討をいたしました。

はじめに、教育出版「小学音楽 音楽のおくりもの」でございますが、学習の狙いを達成するための活動のポイントが示され、関連する共通事項がページ右上に明記されております。そのため、子どもも教師もわかりやすく、見通しを持って学習に取り組むことができる紙面構成となっております。また、日本の美しい情景や、現在活躍している音楽家の迫力のある写真が数多く掲載されており、子どもが歌詞の表す情景を具体的にイメージす

る一助となるよう、また、生活の中の音楽へと広がっていくよう工夫されております。

次に、教育芸術社「小学生の音楽」でございますが、子どもの学力が定着するように系統的な題材設定が行われております。子どもが音楽活動を通し、感受することを大切にしており、子どもが感じ取ったことから、どのように狙いに迫っていくか、教師の創意工夫が生かせる内容になっております。また、音楽づくりでは、リズム、音色、旋律を中心に系統的に扱い、約束事を明確に示すことにより、思いや意図を持って音楽をつくる活動に集中できるように工夫されております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

福田委員 音楽ということなのですが、相模原の小学校の実態からして、音楽教育の特性や、また、子どもたちの持つ課題等について、相模原の事情を説明していただきたいと思います。

佐藤学校教育課指導主事 本市の音楽教育の状況についてでございますが、高学年を中心に専科の教師が教えている学校も多くなっておりますけれども、半数以上の学級で担任が授業を持っている状況でございます。

課題といたしましては、低学年からの共通事項についての積み重ね、これが十分ではないというところが課題になっております。

福田委員 すみません、共通事項を、もう少し具体的にお願いします。

佐藤学校教育課指導主事 共通事項といえますのは、全ての音楽の活動の中の支えとなるもので、現行の学習指導要領で新設されたものです。音楽を形づくっている要素ですとか。

音楽を形づくっている要素といえますのは、リズムとか、音色ですとか、そういったものですね。あとは、音符、記号とか、そういったものについてでございます。

福田委員 今のことに触れて、共通事項についての取り扱い等について、差異化した形でお話をお願いします。

佐藤学校教育課指導主事 共通事項ですけれども、先ほどもお話ししましたが音色、リズム、強弱、反復などで歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のどの領域においても支えとなる音楽の要素として位置付けられております。共通事項は、単に知識として覚える、もしくはそのことを取り出して身につけるということではなくて、音楽を学習する活動を通して、児童が身につけて活用できるようにしていきます。両社とも必要な共通事項を身につけら

れるよう、狙いを持って題材の構成が工夫されております。

教育芸術社は、活動文や図表などを用いて題材を学習する中で、自然に共通事項に気がつき、身につけられるように配慮されております。

一方、教育出版は、題材で扱う共通事項をページの右上に明記することで、教師も子どもも意識して取り組めるように配慮されております。

この点が、両者の大きな相違点でございます。

田中委員 今のことと関連して、そういう相模原市の現状と、今のご説明等を踏まえながら明記されているということは、指導に対してどのような利点があるのでしょうか。

佐藤学校教育課指導主事 教育出版の方で、右上の方に明記されているわけですが、やはり授業を行う上で、必ずしも専門性を備えているわけではない教師が音楽を担当している学校もございますので、そのことを意識しながら授業を進めることができる。また、子どもたちもそのことを意識して、見通しを持って学習を進めることができるという利点があると思います。

田中委員 その中で、教育出版の方は、割と見開き、大きなページというのですかね、折り込みページというか、開くページが結構多いなと思ったのですが、この点に関して、この教科書を広げるということに関しての利点なり、またはデメリットなり、何かあったら教えていただきたいのですが。

佐藤学校教育課指導主事 見開きの写真のお話ですが、例えば、6年生の方の共通歌唱教材「おぼろ月夜」の方は、このような見開きの写真ページになっております。歌唱教材ですが、歌詞の内容を経験の少ない子どもたちがイメージするという意味では、大変効果的ではないかと思われま。あと、巻末ページの方にも、このような形で見開きのページがあるのですが、折り込みのページ、例えば、リコーダーの指使いについて載っているページがございますが、このような形で楽譜を隣に開く形で、開くと運指表を確認しながら、自分でリコーダーの演奏ができるという利点があると調査員の方からも報告されています。

小林委員長 先日、鶴園小学校の研究発表会に行ってきたのですが、たしか3年生だと思っておりますが、ドヴォルザークの「ユーモレスク」を演奏してまして、旋律1、旋律2、旋律3と、いわゆる本当に共通事項をしっかりと押さえながら音楽づくりや音楽を楽しんでいる子どもの姿がありました。それから、4年生は、音楽づくりというところでお囃子の旋律、これもまた非常に子どもたちは喜々として取り組んでいました。

そういう意味でも、現在、音楽の教科書は教育出版ですが、共通事項をしっかりと子どもに意識させておいて、それで進めていくというスタイルで、子どもたちもしっかりそれを認識した上での学習に参加しているという、いい姿が見られました。

それから、教育芸術社の方ですが、題材構成は、やはり共通事項を中核としてやっているわけですね。例えば4年生を見ますと、日本の音楽を楽しもうという中では、系統的な題材の構成があって、まず最初に鑑賞が来るのですね。音楽の特徴を感じ取りながら、そして次のページに行くと、今度は歌唱と器楽が入ってきている。日本の音楽の雰囲気を感じて演奏しようという。その次に行きますと、今度は囃子の旋律で音楽づくりに入っていくと。そして、最後が琴の鑑賞が何かに入ってくると。こういう非常にきれいな流れの中で、共通事項を理解していくと、そういう捉えなのですね。とてもそれぞれよさが出ているのなと思っています。そんな感じがいたしました。

福田委員 先ほど国語のことがあったのですけれども、国語ってやはり子どもたちの気持ちをどこまでつかむかというようなことが、1つ大事な点として、私はあるかと思っているのですけれども、やはり音楽というのは、名称からして楽しんでいくというような、そういう観点から見たときに、どちらも工夫はされていると思うのですけれども、やはり選曲という観点からいくと、いかがなのでしょう。

佐藤学校教育課指導主事 選曲につきましては、先ほどもお話がありましたけれども、本当に両者とも工夫をされているなといったところがございます。

教育芸術社の方では、やはり新しい曲をとということで入れている部分もあります。

教育出版の方では、学年を通しまして、後ろの方にありますけれども、「さんぽ」ですか「おんがくのおくりもの」といった、共通の曲をどの学年にも入れておきまして、例えば音楽集会などで全校で歌えるといった、そのような工夫もされております。

本当に両者とも魅力的な教材を掲載されておりますので、調査員からもその点については甲乙つけがたいというような報告がされました。

田中委員 本当にどちらも写真とかは使われているのですけれども、こと教育出版の歌に関しての、歌の意味を捉えたりとか、そういうことも大事で、その情景が目浮かぶような資料のつけ方、これはやはりすばらしいなと思います。やはり、まだまだ世の中のことを知らない、いろいろな情景を見ていない子たちが、こういう資料で触られるというのは、その歌に対する思いですとか、どういうふうに演奏しようとかにも通じてくるのかなと思いますし、本当にこういうところに自分もいたいとかにもつながってくるのではない

かなと、私は本当にこの資料のつけ方がすばらしいなと思いました。

あと、1年生から導入される鍵盤ハーモニカについてなのですが、相模原市では、この鍵盤ハーモニカを多く用いていると思うのですが、この等身大の写真ですね、これが良いなと思うのですが、どちらにも載ってはいるのですね。これが全体を見渡せるというか、この位置がわかりやすいというか、これはなかなか初めて鍵盤に触れ合う子にはいい教材かなと思いました。

小林委員長 サイズは違うのですか。

田中委員 同じ部分もあります。教育芸術社の方にも全体図と、あと、使う音を中心に撮られている部分というのがあるのですけれども、この教育出版は全体を通して同じサイズでずっと表記をされているので、これは本当に、今回はこの部分というところでわかりやすいなと思いましたし、楽器がなくても指の練習とかもできるのではないかなとちょっと思ってしまったのですけれども。

小林委員長 その辺はどうですか。

佐藤学校教育課指導主事 今お話がありましたように、両者とも鍵盤ハーモニカの写真を取り入れているところです。

教育出版の方ですけれども、実物大の写真を取り入れておまして、こちらは鍵盤ハーモニカのふたの部分に置きますと、子どもたちの鍵盤ハーモニカとぴったり合う形になっておりますので、どこの鍵盤を弾けばよいかというのがわかりやすいような工夫をされております。

小林委員長 多岐にわたってご意見、あるいは感想が述べられましたけれども、ほかにございませんでしょうか。

田中委員 私、すごくいろいろ言わせていただいてしまったのですけれども、本当に歌詞をイメージできる写真ですとか、迫力ある写真、それから先ほどすごい工夫をされていたなと思った、このリコーダーの運指表、なかなかこれを覚えられない子が多いのですよね。

こういう点で、すごく工夫をされておまして、実際に得意な子もそうでない子も、大変使いやすいような、それでいて自分でやっていこうという気にさせるような紙面づくりというか、そういうことも踏まえまして、先ほどご説明があったように、専科の先生でない先生でも、子どもたちに音楽の楽しさと基本を教えやすいという意味で、この教育出版の「音楽のおくりもの」の教科書が、本市にとっては最適ではないかと私は考えます。

小林委員長 教えやすいということですね。

田中委員 はい。

小林委員長 今、田中委員から教育出版をとという意見が出ましたけれども、ほかの委員はいかがでしょうか。ご異議ございませんか。

福田委員 私もちょっと教育芸術社の、やっぱり楽しんでというところの工夫というのは捨てがたいと思うのですが、先ほど説明の中で、本市の実情ということで教えやすいという観点で、しかも楽しいという、そこからどんどん広がっていく、特に小学校の場合は大事だなと思いつつも、やはり教えていくというところからご意見が出ているのであれば、尊重せざるを得ないかなと思います。

小林委員長 わかりました。

それでは、教育出版の「小学音楽 音楽のおくりもの」を採択するというので、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、音楽については、教育出版の「小学音楽 音楽のおくりもの」を採択することにいたします。

続いて、図画工作に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、図画工作の報告をさせていただきます。

図画工作は、2者から教科書が発行されております。両者に共通の特徴といたしましては、子どもが豊かに発想し、友達とかかわり合いながら表現活動に取り組む過程がよくわかりやすく示されるなど、工夫された構成が見られました。

本市では、長年にわたり造形「さがみ風っ子展」を開催し、作品を発表するなど、多くの作品に触れることで創造活動の喜びや人間性豊かな心と感性を育てまいりました。

学習指導要領では、子どもが自分の感性を十分に働かせながら、つくり出す喜びを味わえるようにすることが重視されております。感性を育み、つくる喜びを実現できるような授業づくりという観点から検討をいたしました。

はじめに、開隆堂出版「図画工作 わくわくするね みんなおいでよ できたらいいな 思いをこめて 心をつないで ゆめを広げて」でございませぬ。魅力的な子どもの作品が紙面全体に掲載されている題材が多く、子どもが教科書を開いたときに、創作意欲が高まるようなインパクトのある構成になっております。また、題材ごとに学びを振り返る観点が表示されており、目標と評価の関連が明確になっている点も大きな特徴となっております。

振り返りの観点については、各題材の最後に振り返ってみよう、振り返って話して、振り返って話し合おうマークで示されており、子ども自身で学びが確認できるとともに、言語活動の充実が図られるよう工夫がなされております。

次に、日本文教出版「図画工作 たのしいなおもしろいな 見つけたよためしたよ 見つけて広げて」でございます。ほとんどが見開き1題材の誌面構成で、見やすくゆとりのあるレイアウトになっております。特に低学年の子どもには、目にする情報が1題材に限定されていることから、学習課題を把握しやすく、狙いに即した活動が展開しやすいと考えられます。また、学習の目当てを冒頭に示すことで、活動前に教師と子どもが目当てを共有したり、活動中に確かめたりすることができるようになっております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 説明が終了いたしました。これより質疑、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

福田委員 本市の図画工作、美術教育という観点で課題となっているところ、そのようなところで目指しているところ、そういうところをお話しいただければと思います。

笹嶺学校教育課指導主事 相模原の実情でございますが、まず教師の観点からいきますと、音楽では専科を置いている学校というのがありますが、ほとんどが低学年を中心に担任が指導しているという現状があります。造形遊びや鑑賞の活動など、ちょっと昔はなかなか活動の難しかったものも、最近はきちんと内容を踏まえて活動しているところはありますが、まだまだ表したいことを表すとか、感性を働かせるといった狙いに即した活動が、どの担任も行われているかというのは、まだまだ難しいところというのが課題だと捉えています。

子どもの点からいきますと、先ほども出ましたが、造形「さがみ風っ子展」というのを6年間の中で何回か出品する機会を持っておりますので、自分の作品を多くの人に見てもらうとか、それから、実際に足を運んで多くの作品に触れるといった貴重な体験をしています。そういうところが図工の授業にも生かされていると捉えております。

田中委員 両者を見せていただいた中で、どちらも作品に関して、題名だったりとか、サイズ、画材ということで、いろいろ出ている中で、開隆堂出版の方は作者の思いというものもかなり書かれていると思うんですね。キャプチャーというのですが、こういうものについていることというのは、指導においてどのような違い、または良い点とかがあったら、教えていただきたいのですけれども。

笹嶺学校教育課指導主事 図画工作科におきましては、特に絵や立体、工作において、表現したいことを見つけて表現するということが内容に示されております。キャプチャーをつけることで、作者のその作品に込めた思いや、その思いを表すための工夫、つまり表現したいこと、大事なところを知ることができ、それをもとに作品を見ることができます。

開隆堂出版につきましては、そのキャプチャーを絵に限らず、立体や工作にもつけているのが多いというのが特徴でございます。

日本文教出版につきましては、キャプチャーがない作品も多いのですが、絵や版画などにつきましては、より詳しいキャプチャーをつけているという傾向にあると言えます。また、活動途中の子どもの表情や指導している様子、つぶやきなどを掲載しており、こちらの方から思いを酌み取れるというような示し方をしているのが特徴です。

ですので、やっぱり思いをきちんと、その作品のものだけではなくて、言葉などからも示されているという点は、とても狙いに迫る授業を展開するに当たっても、重要なところだと言えます。

福田委員 構成の面で見ますと、図画工作が両面見開きで1つのテーマが設定され、しかも先ほどの音楽の話でいえば、狙いがはっきり示されている方が日本文教出版ということですが、確かに作品の迫力という点で見ますと、作品が魅力的に配置されているという開隆堂出版だと思います。やっぱり相模原の子どもたちの気持ちをつかんでいくという観点をしっかり押さえた上で、採択というふうに持っていきたいと思うのですが、その点ではどうでしょうか。

笹嶺学校教育課指導主事 その点につきましては、調査員、それから検討委員会の方で、両方とも話題に挙がったことでございます。

見開きの点につきましては、やはり教師の教えるという観点からいきますと、特に低学年では見開きで1題材の方が見やすいのではないかと、1つの題材を集中して見ることができ、学習も展開しやすいのではないかと、調査員のところで意見が出たところでございます。

それから、作品の掲載につきましては、検討委員会の方で、作品のインパクトがあるというか、目に飛び込んでくるのが多いというのが開隆堂出版社の方の意見ということで、たくさん出ました。

検討委員会の方で出た中では、造形「さがみ風っ子展」に出品している子どもたち、そういうふうな造形活動に携わってきた子どもたちにとっては、作品をたくさん見て触れて、

感性を豊かにするといった点から、作品がたくさん掲載されていて、教科書を見てつくってみたいという気持ちになるような教科書の方がよいのではないかという意見が出されました。

大山委員 開隆堂の方を見てみまして、これも理科と共通していることなのですが、なかなか取り組みにくいという気持ちが多分あるのだと思うのです。ですから、こういった作者、ある程度、実際に今つくっている方の、要するに語りだとか、その辺を入れて、本当にわかりやすい文章が書いてございますので、やはりそういったつくる楽しみ、そういったものを植え付けるきっかけになるのではないかなというような思いがいたしました。

小林委員長 基本的に、この開隆堂出版と日本文教出版は、教科書のつくりの精神が違うのですかね。私なんかを見ると、日本文教出版の方、先ほど福田委員がおっしゃっていましたけれども、題材ごとに活動の概要をきちんと示されていて、まず題名があって、リード文があって、学習の目当てが書いてあって、それで活動の概要が書いてあると。そういう中で、先日も見たのですが、物語から広がる世界という場面があるのですが、飛び立つ鶴が出ているのがあり、これなんかは本当によく、その作者と一緒に物語をつくっているような気持ちになれるぐらい、非常にいい形で構成されているなと思います。確かに作品を見ますと、開隆堂出版は非常に迫力があって、そこから感じ取る方がという手法をとっているのかなと思って、そんなふうな編集の精神がちょっと違っているのかなと思うのですが、その辺はどうなのでしょうね。

笹嶺学校教育課指導主事 ご指摘のとおりだと思います。開隆堂出版におきましては、趣意書等を読ませていただいたところ、検討委員会の方でも出たのですが、児童の観点で見たときに、とても見やすく活動しやすいという意欲が湧いてくる、そちらの方を重視したつくりとなっております。魅力的な紙面で学びやすいというところを重視した構成になっていると言えると思います。それから、学習の見通しと振り返りという点におきましても、冒頭に目当てを置きまして、それから、最後の方に4つの観点で振り返るという流れのところ、子どもの思考や判断する力を見据えた構成になっているところを構成のポイントとして挙げております。

日本文教出版の方では、活動の流れを重視しているというところだと思います。その中で、作品だけではなくて、子どもの活動の様子、子どもの表情だったり、つぶやきというのを写真の中に入れて、そちらの方を大きく掲載しているというのが大きな特徴です。目当ての方も、4つの観点を冒頭に持ってきてまして、細かい観点を押さえてから授業に入る

というふうな目当ての押さえ方をしているところも大きな特徴でございます。

小林委員長 つくりが違うんですね。となると、教科の目標は、感性を働かせながら云々とありますよね。それからいくと、開隆堂の方がそれには近い、沿った教科書づくりととれるのかどうか。私はとれるのかなと思っていたのですが。

笹嶺学校教育課指導主事 検討委員会の方では、そのような意見が多く挙がりました。

小林委員長 感じ方だとか表現の思いをと、その辺を訴えている教科書ととれる、理解をしていいのかなと。

福田委員 ただ、本当にこちらの日本文教出版の方は、子どもたちが本当に取り組んでいる様子のよさというのが、非常によく出ている教科書だと思いました。その流れもはっきりわかりやすいので、そういう印象を持ちましたけれども、甲乙つけがたいというところで、総合的にどういうことが言えるのか。やっぱり作品から、ある意味、描きたいという気持ちをかき立てるといふことである、子どもたちの表情よりも、作品の持つダイナミズムみたいな方が評価されるのかなとも思います。

難しいけれども。

田中委員 難しいですね。

福田委員 「さがみ風っ子展」の狙いというようなことは、どういうことにあるのでしょうか。

笹嶺学校教育課指導主事 様々な狙いがあるのですけれども、先ほど課長の方からお話がありましたように、やはり作品をつくるだけではなくて、多くの人に見てもらおうということで、自分の創作意欲というか関心をさらに高める。そういう場を設けることによって、たくさんの作品に触れて、感性を高める。地域とのつながりというのもございますし、それから、いろいろな自分と違う作品を見るということで、自分と他者の違いというのもそこで学ばれるのではないかという、たくさんの目標というか、狙いが込められているのが「風っ子展」でございます。

福田委員 1つ、学び合いの場でもあるということですね。

笹嶺学校教育課指導主事 はい。

小林委員長 大体、多彩な意見が出ましたが、いかがですか。

田中委員 見せていただいて、それぞれ本当にいいところがあって、どちらも本当に甲乙つけがたいと思うのですけれども、例えば見比べるようなところがあれば、何か教えていただきたいのですけれども。

笹嶺学校教育課指導主事 少し内容は違うのですが、5、6年、上の12ページ、13ページ、両方とも同じページのところになります。そちらをご覧ください。

こちらなのですが、開隆堂出版、日本文教出版ともに、板を切り出したものを組み合わせるという題材になっております。立体、それから工作というふうに内容に違いはありますけれども、子どもの完成作品を中心にした構成となっている開隆堂出版につきましては、様々な作品を数多く紹介したり、キャプチャーをつけて、子どもの工夫や思いを掲載しているというのが特徴です。

日本文教出版につきましては、完成した作品だけではなく、紙面の半分を製作途中の作品や子どもの様子が多く掲載されております。思考しながら表したいことを表現している子どもの表情やつぶやきから構成しているのが大きな特徴となっています。そこが一番顕著にわかりやすい題材の1つかなと思います。

田中委員 先ほどおっしゃられていた、作品の数をより多く子どもたちに示したいという意味では、やはりいろんなパターンで、同じ糸のこを使っているのですが、ただ組み合わせただけではなくて、生活の中にこれを生かそうとしているというか、本立てにしてみたりとか、そういう意味ではすごくおもしろいなと、開隆堂出版の作品の展示の仕方はすごく、やっぱりインパクトというところでは、すごくあるのではないかなと思いました。

笹嶺学校教育課指導主事 先ほども申したのですが、一言つけ加えておきますと、実はここ、題材の内容が若干違いまして、そこがちょっと直接は比べられないところなのですが、日本文教出版につきましては、立体ということで、形をつくっていくことが中心になっている題材になります。開隆堂出版につきましては、工作ということなので、いろんな目的のある使えるものをつくっていかうという、狙いが若干が違っているところがありますので、直接は少し比べにくいところがあるのですが、紙面の構成の仕方については比べやすいかなと思って、例に挙げさせていただきました。

小林委員長 いかがでしょうか。

田中委員 今ご説明いただいたり、委員からの意見を伺っていて、本当に両者ともそれぞれいいところがあって、甲乙つけがたいと思います。その中で、造形「さがみ風っ子展」のことも踏まえながら、本市の子どもたちにおいて、どういうことが必要なのかということと考えると、やはり創作意欲が湧く写真の構図であったりとか作品の掲載、それから資料のつけ方ですね、開隆堂出版の方では、現在活躍されている作家が全部の学年ですかね、ついてますよね。作家の言葉とか作品が載っていたりとか、感性を刺激される、あ

るいは本当に作品がたくさん載っている、そういうことが検討委員会からも出ているということも踏まえながら、あと、この最後の、必ずその単元の中で振り返って話し合おうというところがついているのですけれども、ここで友達と作品についての話し合いが持たれるというところで、言語活動の充実というところにまたつながるのではないかなと。その造形活動を通して、友達との触れ合いですとか、自分の考えをまた新たに高めていくという意味では、この構成はとてもいいかなと思いましたので、開隆堂の方の「図画工作」の教科書が本市にとっては適しているのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

小林委員長　そういう提案がございました。

甲乙つけがたいのだけれども、感性の問題、それから感性を刺激するという問題、言語活動等を踏まえ、相対的に開隆堂出版の「図画工作」を採択するというところで、いかがでしょうか。よろしいですか。ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長　ご異議ございませんので、図画工作につきましては、開隆堂出版の「図画工作」を採択することにいたします。

ここで休憩をとります。14時55分に再開いたします。15分間の休憩をとりたいと思います。よろしく願いいたします。

(休憩・14:41～14:55)

小林委員長　再開いたします。会議を続けます。

それでは、家庭の説明をお願いいたします。

西山学校教育課長　それでは、家庭の報告をさせていただきます。

家庭は、2者から教科書が発行されております。両者に共通の特徴といたしましては、どちらも体験や実践を通して、子どもたちが自ら学び、生活に生きる基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、家庭生活を大切にすることを養うことを目指した編集となっております。

家庭科では、本市の実態として、子どもの生活経験の個人差が大きいということ、教師も限られた時数の中で、問題解決型の授業を充実させることや技能を確実に身につけさせるための手だてについて、課題を抱えているといったことがございます。そこで、問題解決的な学習を通して、子どもが基本的な知識・技能をしっかりと身につけられるような学習展開が期待できるかという観点から検討いたしました。

はじめに、開隆堂出版「小学校 わたしたちの家庭科」でございますが、こちらは、子

子どもが問題解決のための実践を通して、基礎・基本の知識・技能を身につけることができるように、各題材とも学習のプロセスがわかりやすい紙面構成となっております。身の回りの生活から課題を見つけ、目当てをつかみ、活動を通して知識・技能をしっかりと身につける学習が展開できる構成となっております。また、実習例や製作例の手順が写真やイラストでわかりやすく提示され、子どもが学習活動をイメージしやすく、活動を通して基礎・基本を習得し、家庭での実践につなげる意欲づけが図られております。

次に、東京書籍「新編 新しい家庭」についてでございますが、全ての学習内容が、見つけよう、計画・活動しよう、生活に生かそうの3つのステップで、問題解決的な学習ができるような構成となっております。一人ひとりに考えさせる場面の設定が多く、自らの考えを自分の言葉で表現することが大切にされております。また、材料、用具の使い方等の基礎的な技能について、実物大の写真やイラストで丁寧に示され、必要なときに子どもが活用できるような配慮がなされております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 報告が終わりました。これより質疑、意見等がございましたら、お願いいたします。

大山委員 今、ご説明の中で、本市の実態として、子どもの生活経験の個人差が大きいというご指摘がございました。この家庭科の学習を進めるに当たって、具体的にどのような課題になっているか、お伺いしたいと思います。

黒岩学校教育課指導主事 生活経験の個人差についてでございますが、例えば、日ごろから調理や裁縫などの経験ですとか、手伝いの習慣がある子と全くない子といった個人差があります。実習や製作の場面で、進度に差が生まれたり、個別の支援に追われたりといった課題がございます。

また、家庭での食生活や生活のリズムですとか家族構成の違いなどから来る生活習慣の多様性が挙げられるかと思えます。家庭科では、身の回りの生活の中から課題を見つけて、学習がスタートをするのですが、その基盤となる家庭生活や子どもの実態にこういった差があるということが、指導する際の難しさと言えます。さらに、家庭での実践や家族の協力を得るといった活動も多いので、課題を出すといった場合などにも多様な家庭環境への配慮が必要となっております。こういった課題が考えられます。

田中委員 今、挙げていただいたような課題が見えるということなのですが、そういう問題解決的な学習を充実させることに課題があるということが、先ほどご説明の中でもあっ

たのですけれども、どのような改善を考えることができますでしょうか。

黒岩学校教育課指導主事 この教科では、実生活に結びついた問題解決的な学習をする、それを効果的に進めることで、身につけた力を生活で生かすことができるようにすることが求められています。ですので、それを目指して、限られた時間の中で、適切に指導するためには、身につける力というのを明確にすること、そこに向けた適切な課題づくりや実践を組み立てるということが大切になってきます。生活経験の個人差があるという学級の実態を踏まえて、教科書の課題提示の部分等も活用しながら、身につける力につながる学習課題を設定することが大切であると思いますし、また、そのために、適切な時間配分ということも大事になってくると思います。

そうやって、子どもたち自身にもどんな力を身につける学習なのかということで、目当てや学習の見通しなどを持たせて、問題解決的な学習に取り組んで、身につけたことを家庭生活をよりよくするための実践に進めていくという意欲づけを図ることが大事な授業改善だと感じています。

大山委員 それでは、今のご説明に引き続いて、具体的に今回、選択されました2者の教科書について、どんなところがそれぞれについて生かされるか、その点をお伺いしたいと思います。

黒岩学校教育課指導主事 どちらの教科書も問題解決的な学習展開に活用できると思いますけれども、はじめに、開隆堂出版の方ですと、実習や製作のプロセスが写真等で大変見やすくなっているのも、子どもが実践の際のイメージをはっきりと持つことができます。例えば、調理実習などで、みそ汁のだしが出て、鍋の縁に泡立っている様子ですとか、フライパンに油を行き渡らせるというのはどういったことなのかということが、写真を見ればよくわかって、この問題解決の実践に確実に結びつけることができると思います。こうやって、学校で成功経験を積むということで、家庭でもやってみようという意欲につながると考えられます。生活経験の個人差が大きいという実態を踏まえまして、どの子も見通しを持って活動して、それを通して技能を身につけて、家庭で生かすことを目指す授業づくりが期待できると考えます。

東京書籍の方で申しますと、各題材とも、先ほどあったとおり、3つのステップで構成されているのですけれども、1番目の見つめようの段階で、子どもに改めて自分の身の回りの生活を見詰め直して課題を見出すこと、また、3番目の生活に生かそうといった段階で、学んだことを発展させたり、家庭で実践したりするための工夫を考えるとといったこと

を大切にしたい授業づくりができることを期待できます。

福田委員 家庭科というと、男女差もあたりなのですからけれども、特に、男の子の家庭での自分の位置付け、それから、家庭の中での意識的な、自分のことは自分でやる、そして、家族と協力して家庭生活を営むというような自覚が欠けているなんてこともよく言われるところだと思うのですね。そうした意味で、教科書を見ましたところ、家庭の中でどういうことをやっていくかなということ、東京書籍の方は62ページ、63ページ、それから、開隆堂出版の方は30ページから32ページまであるのですけれども、これは大きく差があるのですね。中でいろんなことをやってみようということに挑戦しているイラストなり写真がありますが、男の子が積極的に動いている様子なんかも取り上げながら、やっぱり家庭の中で自立的に、かつ共同的に生きていくという姿を例示しているというところで、こういうところから、男の子も少し自覚的に目覚めてほしいなという、そういう可能性があるかなということ、私は、開隆堂出版の教科書の方が内容が豊富だと思います。

特に、男の子への投げかけが多いという点で、現状の課題を少し打開するきっかけにもなるかと思います。

田中委員 本当に両者ともいろんな工夫がされていて、東京書籍では、調理の部分と、あと、運針とかお裁縫の部分で、左ききの子の作業を大きな拡大写真でわかりやすく示していると思います。

福田委員 両方でね。いろんなところで左右両ききの。

田中委員 そうですね。なかなか左ききを今、直すということはあまりないので、こういうところでは、すごく実は指導がしにくい部分があると思うので、こういうのはすごく画期的だなと思いました。

大山委員 先ほどちょっと気になったのは、生活経験の個人差が大きい、具体的にどんなことが課題になっているかということで、一番最後に発言のありました、多様な家庭環境への配慮が必要ということについて、具体的に知りたいのですが。それから、教科書にその辺の何かアシストというか、配慮というのが両者でございますでしょうか。

黒岩学校教育課指導主事 多様な家庭環境への配慮というのは、どの家庭科の授業をされる先生も悩みとして出てくるところで、例えば、学習のはじめに、家庭生活の中から課題を見つけるといった段階で、家族にインタビューをしてきてくださいなんていう宿題を出したりするときに、なかなか家族構成によっては、豊富にたくさんのインタビューをしてこれるお子さんもいれば、なかなかその素材が集まらないというお子さんもいたりする中で、

こういった課題を出すかというようなことがあるのです。

今、少しつながらないかもしれないのですが、教科書の中では、そういった家庭の環境の差が出ないように、身の回りの学校の生活の中から、例えば、身の回りの整頓の学習ですと、開隆堂出版ですと25ページですとか、東京書籍ですと44ページはおうちの中の生活ですけれども、学校のロッカーの整頓といったところから、学校の生活の中から課題を見つけようというような配慮がされていたり、それから、食育の部分、食生活の部分でも、給食を題材にして、食生活ですとか栄養の大切さに気づかせるときに、給食からそこを考えてみようというように、皆同じ条件で課題づくりができるようにといった題材設定ができるような配慮はなされていると感じています。

大山委員 それは、2者ともそういう配慮がなされているということですね。

黒岩学校教育課指導主事 はい。

小林委員長 東京書籍もやはり給食というのをベースにしていますか。

黒岩学校教育課指導主事 ありました。26ページ、27ページです。

田中委員 ここは給食が出ていますよね。27ページの下のところ、給食の献立というか、写真が出ていて。

小林委員長 この両者の基本的な編集の理念が若干違うように見えているのです。

開隆堂出版の教科書は、自分のできることを増やして、家族や周囲の人々のために生活を工夫する。支えられている自分、できる自分というのが何かベースになっているように、基本理念に押さえて編集されているのかなと。

東京書籍については、自分の体験・実践を通してできる喜び、できる自分を発見して、生活を工夫し、創造する、中学生に向かっていくと。

この辺で、家族や周囲の人々のために生活を工夫するという部分が開隆堂出版は色濃く出ているのかなと捉えるのですが、もし、違っていたら教えていただきたいし、コメントをいただければと思うのです。

福田委員 例えば、配列は大分違うのですが、食育のところ、食べて元気というタイトルはどちらも同じものが、東京書籍では26ページからスタートします。開隆堂出版では42ページからということになりますが、この同じ流れで見ると、実際につくってみようというところでの流れとしては一緒のように見えるのですが、やっぱり実際に学校でやったことというのは、非常に経験が少ないので、うちでもやってみようということですね。そして、振り返りで、本当にできたかなとか、振り返ろうというようなところ

まで、開隆堂出版の方は押さえているかなと。

小林委員長 だから、開隆堂出版は、5年生の段階で学習をしっかりと積み上げていって、それを今度は、6年生になったら生活に実際に生かしていこうと、そうしたように変化していきますよね。

田中委員 私も、調理実習の過程でもそうなのですが、どちらも手順等をきちんと書かれているのですが、開隆堂出版は一律で準備から、鍋の沸騰する状況から、何を入れるからというところも、写真で順を追って記載されているのですね。特に、調理に関していうと、やっぱりその場で見ているのと見ていないのでは、随分イメージが違ってきて、その後、また思い出してやろうと思ったときに、すごく具体的にわかりやすい。このタイミングで、こういうみそ汁をつくるときに、ここが大事なんだというのが写真で描かれている。今、みそ汁だったのですが、ほかの調理でも、左から右に流れるように、1列で描かれているという意味では、本当に見やすいなと私は思いました。使いやすい。

あと、運針に関しても、やっぱり同じように左から右に過程が描かれているという意味では、今、本当に家庭でボタンをつけることすらできないというか、なかなか至らない部分というかがあると思うのですが、本当はそれは家庭で教えなければいけない部分だと思うので、そういう中でも子どもが意欲を持って取り組もうというところでは、すごくわかりやすい表記になっているのではないかなと思いました。

福田委員 先ほどのところで、ちょっと言い忘れたのですが、やっぱりもう一度うちでやってみようということに力点があるということで、チャレンジコーナーというのを必ず各テーマごとに置いていて、これを参考にしながら、どんなチャレンジができたかなという振り返りの視点としても、非常に具体的に出ているので、各いろいろな章ごとに。

小林委員長 それは開隆堂出版ですね。

福田委員 開隆堂出版です。だから、ぜひ、生活の中に本当に返っていくような、もちろん学校での指導に便利につくりにもなっているかと思しますので、こちらの方が、そういう点ではすぐれているかなと思います。

小林委員長 チャレンジコーナーでは、弁当だとか、お掃除だとか、洗濯だとか。

福田委員 おむすびのつくり方とかね。

小林委員長 そういう具体的な。

福田委員 ええ、具体的なことにチャレンジできる。

でも、ここのところで、津久井みそが出ていないのは残念ではありますが、やっぱりみそに結構力を入れた開隆堂出版があるのですね。だから、ぜひ、ここで津久井の大豆を使った何か挑戦をチャレンジでしていただきたいなと思います。

小林委員長 東京書籍が、先ほど特大版、実物大の写真で左ききへのサポートがあると言っていましたけれども、開隆堂の方は、左ききではなくて、調理の手順は全て児童の側から見た写真で構成されているので、調理実習には非常にわかりいいのかなと、そんな感じがいたしますね。

それから防災という観点で開隆堂出版は、整理整頓、おにぎり、炊き出し、手ぬぐいの使い方、安全マップ。東京書籍は、防災としての針と糸、さっきも言いました、鍋で炊く御飯。大体、対等くらいに対応していますかね。

田中委員 今、防災というと、危機管理というところだと思うのですが、ある先生に言われたのが、整理整頓こそ危機管理の第一歩だと言われました。やっぱり整理整頓ができないと、いろんな意味で、部屋もそうですし、部屋でいろんなものを踏んでけがをするとか、あとは、必要な書類が出てこない、大事な書類がどこかに紛失してしまったというところでは、危機管理ということではすごく大事だと思うのですね。

そういう意味で、やっぱり家庭科の中で整理整頓、本当は家庭科でやる前に家庭でやらなければいけないことなのだと思いますけれども、なかなかそこに行き着かないというところで、本当に上手に、基本的なところから物を片づけるということを取り組んでいっちゃるというところでは、どちらも本当によく書かれているなと思います。

小林委員長 そうですね。

福田委員 東京書籍の方は、家庭の中でのこと、また、家庭の中で自分が自立していくというところには、十分な教材が配置されていて、いいと思うのですが、私が東京書籍でこれはいいなと思ったことの中に、社会に目を向けていって、持続可能な社会を目指してという、小学生でここまで行かなければいけないかどうかはありますけれども、やっぱり家庭が社会の1つの基盤であるということと、社会に目を向けていくということの大切さについては、一歩先に行っているようなところが出ておりました。

小林委員長 それは東京書籍の108ページですか。

福田委員 一番最後です。

田中委員 とても発展的ですね、そういう意味では。

福田委員 そうということとつながって、生活科だとか、社会科、理科につながっていくと

というような意味で捉えていけるかなということですが、開隆堂出版の方も、そういったことでは、教科ごとの関連について、記述の中にそういうものが触れてあります。

田中委員 本当にどちらもいいなと思います。私は、東京書籍の、プロに聞くとか、日本の伝統とか、そういう資料もとても発展的で、子どもたちにはいろんなプロの方の言葉を聞くというのはすごくいいなと思います。その中で、やっぱり今ご説明をいただいた、相模原の子どもたちの現状という、家庭でのあり方というところで考えると、基礎・基本にやっぱり立ち戻るのかなと考えました。

本当に私も子どもが小学校のときは、ミシンの実習ですとか、玉止め、玉結びのときのお手伝いにちょこっと行ったことがあるのですがけれども、なかなか理解してもらえないのですよ、子どもたちに。指をこうすり合わせるように糸をこうするのだよとか、そういうところもすごく子どもにとってはやっぱり難しいことなのだろうと思うのですが、これをもとに、これから中学校だとか高校での家庭科って発展していくと思うのですね。やっぱり基礎・基本に基づいて、家庭科というものを子どもたちに教えながら、さらに子どもたちが意欲的に自分からこれをやってみようとか、学校から帰ってから、今日、これをやったから、もう1回やってみようとか、立ち返れるというところでは、本当に手順が明確にわかりやすいという中で、流れるように記載されている開隆堂がとてもわかりやすく、いいのではないかなと思いました。

今、家庭科もそうですし、ほかの実技教科ってなかなか時間数が割けない中で、いかに子どもたちに生活していく力をつけるかということがすごく課題だと思うのです。理科、社会とか、全ては生きるための力をつけるための教科であって、やっぱり実際に生活に根差している教科というのは、本来はもっと時間を割いてもいいのではないかな。いや、そうではなくて、家庭でもっとやってほしいというところが、先生方の本音だとは思いますが、それがやはり家族構成ですとか、いろんな多様化された家庭であると、昔はできていたことができなくなっているという現状だと思うのですね。そういう中で、やっぱり子どもたちには自ら進んで、そういう生活するという技術を学んでもらいたいですし、身につけてもらいたい。そういう中で、振り返りがしやすいとか基本的なことに立ち戻って、生活に生かしやすいというところで、私は開隆堂出版の教科書が本市の子どもたちにとって、有効なのではないかなと考えました。

小林委員長 そうすると、開隆堂出版というお考えですね。

田中委員 はい。

小林委員長 今、田中委員の方から、家庭は、開隆堂出版の「小学校 わたしたちの家庭科」をどうだろうという意見が出ました。

ほかの委員のお考えはいかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 もしご異議がなければ、「小学校 わたしたちの家庭科」を採択することによってよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、家庭については、開隆堂出版の「小学校 わたしたちの家庭科」を採択することにいたします。

続いて、保健に入ります。

説明をお願いいたします。

西山学校教育課長 それでは、保健の報告をさせていただきます。

保健は、5者から教科書が発行されております。全体的な特徴といたしましては、知識の習得と学んだ知識を活用する学習活動の充実が図られております。また、基本的事項や学習課題などがわかりやすく表記されております。

本市の子どもは、全国と比べて、体力と生活習慣に課題があり、また、健康的な生活を送るための過ごし方について、自分で考えて行動に移すことを苦手とする傾向がございます。心と体のつながりを意識し、正しい生活習慣を身につけること、自ら考え判断し、行動する力を身につけるといった面から検討し、東京書籍「新編 新しい保健」と、光文書院「新版 小学保健」の2者が推薦されました。

はじめに、東京書籍でございますが、1時間ごとの学習課題が明確に提示され、子どもが見通しを持って授業に臨むことができます。單元ごとに学習を振り返ろうというページがあり、自己の学びを見詰め、今後の生活に学んだことを生かせるように工夫されております。また、他教科で学習したこととの関連や中学校へのつながりが図れるよう工夫された構成になっております。

次に、光文書院でございますが、その時間で習得すべき内容がわかりやすく提示され、習得した知識を生かすための学習活動が設定されており、習得・活用の流れを基本として、学習が進められるようになっております。また、発展的な学習内容が別のページに掲載されるのではなく、学習展開の流れの中に位置付けられており、指導しやすいように工夫されております。

以上で報告を終わりにいたします。

小林委員長 報告が終わりました。協議に入りたいと思います。ご質問、あるいはご意見がございましたら、よろしくをお願いします。

田中委員 先ほど家庭の中でも時間数の話をちょっとさせていただいたのですが、中学年で8時間程度、高学年で16時間程度と伺いました。そういう中で、1年の中で、保健をどのように指導していくか。例えば、学期ごとに分けて指導するのか、またはある時期、集中して時間をとられるのか、現状をちょっと教えていただきたいのですが。

石井学校教育課指導主事 保健の扱いにつきましては、先ほど田中委員の方からあったように、小学校3、4年生で8時間程度、5、6年生で16時間程度なのですが、月に1回とか、そういうことではなくて、ある程度、適切な時期にまとまった形で行うことが多いです。そのようなことが望まれています。4時間なら4時間まとめて、一定の期間に行ってしまう。そこで習得をし、活用まで持っていくという形で行われています。

大山委員 今、授業数が少ないというお話がございました。その中で、いわゆる保健の授業の目的と伺いますか、どんな保健指導を実際に行っていこうとお考えか、お伺いしたいのですが。

石井学校教育課指導主事 全体としましては、知識を習得、それを重視するとともに、それを活用していく指導ということなのですが、目的としましては、体育科の目標にあります「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」という形になっています。健康・安全についての理解という部分につきましては、特に保健のところなのですが、グループ活動や実習などを通して、単に知識や記憶としてとどめるだけではなくて、児童が身近な生活における学習課題を発見し、解決する過程を通して、健康・安全の大切さに気づくことなどを含んでおります。

大山委員 今、公開授業と伺いますか、モデル授業でもって、健康教育というのを幾つかの学校でやっていらっしゃる。歯の問題もあるし、いわゆる健康教育ということで見せていただきましたが、その中で、いろんな活動をやっているのですね。そういった活動、特に力を入れているという学校がモデルであって、それが早く相模原の市内の小学校に浸透するといったと考えていますか。それと、この保健授業との関連というのは、いかがなのでしょう。

石井学校教育課指導主事 指導に当たりましては、身近な日常生活の体験や事例などを用いた話し合いとか、ただの講義だけではなく、それから応急手当の実習・実験などを取り入れることを推進しています。その関係で、地域や学校の実情に応じて、養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員や薬剤師等、専門的な知識を持った方々の参加・協力を推進すること、それが多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することという中に含まれておりますので、推進しております。

大山委員 その意味で、時間数が少ないという制限がございますから、おのずから保健の教科書というのがかなりページ数が制限されてしまう。この中で、それを生かすどんな工夫をしたらよろしいのかなと思って、それぞれの中に、今、2者が挙げられていますけれども、その内容ですよね。コンパクトにまとめたけれども、内容の配置、項目だとか、その辺がバランスよくいっているのか。私は読ませていただいたときに、文教社の方は項目に少し偏りがあるような印象を受けたのですが、東京書籍の方はバランスよく配置されていたような印象があるのですが、その辺を確認を込めて、いかがでしょう。

石井学校教育課指導主事 3学年では「けんこうな生活」という部分、大体、3時間から4時間ぐらいで設定されているところが多いと思うのです。4学年で「育ちゆく体とわたし」、これも8時間程度の中の半分くらい。5学年では「心の健康」と「けがの防止」、このあたりが5学年で、6学年が「病気の予防」という形で、16時間程度を5学年で大体半分と6学年で半分。ただ、程度という形で、若干の幅を持たせておりますので、必ずその時間という確定しているものではございません。

福田委員 幾つか特色もあるのですけれども、まず、東京書籍のこのつくりの中で、やっぱり子どもの目線というのがよく表されていて、子どもへの問いかけとか、学びへの喚起というのが子どもの吹き出し的のところからよく見えてくるなということと、実際に子どもたちがそういうことに積極的にかかわろうということのいい題材としては、東京書籍の27ページの安全マップをつくるということ、子どもたち自身があちこち本当に細かいところを、ああ、本当にこういうところは大事ななということで、先ほどの知らない人に声をかけられたら、こども110番のついている店なんかに逃げ込む方がいいとか、エレベーターで密室になる、こういうようないろんなことを話し合っ、地域の様子なんかも見ながらマップをつくっているとか。

特に相模原の問題でいうと、私がちょっと経験的に感じていることに、自転車にひかれそうになるのですよ。道路行政の問題もあろうかと思えますけれども、そのときに、自転

車安全利用五則という特別に自転車のことについて触れているのは、東京書籍のみですね。そのようなことがありまして、一体、今、右側通行なのか何かわからない。私たちが子どもときは、歩くときは右側とか、何かそういうふうに習った割には、もう人がどんどんぶつかってきたりとか道が狭いからでしょうかね、というようなことがあるのですが、そういういろんな課題に対して、やっぱり子どもが取り組んでいくような姿勢で書かれているというところに、東京書籍のよさがあるかなと思いました。

小林委員長 わかりました。

先ほど報告の中で、東京書籍は授業の流れが1単位時間で扱えるようになっているとありましたけれども、同じように、僕は学研の各章の最後のまとめのところ、振り返り、学びを生かして、明日につなげるということで、習得したものをすぐ活用の流れに乗せるという意味では、学習内容の確認にとどまらず、実践的な知識の活用につながるよう工夫されているということで、非常にやはりいい部分になっているかなと思います。

先ほど東京書籍の方は、学習課題がイメージされていて、活用して深めようというところで、活動場面が非常に多彩に用意されているわけですね。そういう意味でも、学研のその部分も見落としはいけない部分かなと思います。特に、その後に出てくる、かがくの目というところでは、科学的認識を非常に高められる工夫もここでされている。

それから、もう1つ、他教科との関連、これについて、東京書籍はしっかりつなげようということが表示されていまして、関連が示されているわけですが、大日本図書もそうなのですね。ほかの教科との関係をリンクとして提示してあって、以前に学習した学年がきちんと提示してあって、学習の内容を振り返ることができる。こういう点では、東京書籍の良いところと同じように、大日本図書でも、そういうしっかりした他教科との関連も載せてあるなど、そんなふうに読み取ってみました。

大山委員 3、4年生の教科書の中で、体の発育というのはすごく大切。子ども自身にとって、それを保健の授業で学ぶことが非常に大切なことと思います。

今回、保健の教科書を校医として、あるいは成長の専門医として見させていただいて、コンパクトなページの中にやっぱり内容を詰め込むということで、これはどうしても難しいのは重々わかっているのですが、体の成長の部分を私の目から見て適切に表現しているというのは、文教社。どこかの流れでもって、1つ足りないなとか、構成をこうしたらいいのかなというところが、今回、閲覧させていただいて、見えました。もし私が書くなら、こういうシナリオというのは頭にできました。表現が正しくというか、適切に表現されて

いるのは、文教社であったなということですね。

小林委員長 現代的な課題と、あとインターネット犯罪だとか、食中毒とか、熱中症、この辺を落とさず書いているのは、やっぱり光文書院なのですね。なかなか、東京書籍もインターネット犯罪は記述がないのですね。それから、大日本図書もインターネットについては記入していない。食中毒も記入していないのですが、かなりしっかりとその辺を捉えているのは、光文書院かなと感じました。

i P S細胞の記述の教科書はなかったように、私の調査では思うのですが、どこの教科書も。

福田委員 あと、やっぱり光文書院のところでは、地震、災害の津波、ここにはページ数を割いて、詳しく、かつ非常に大きな喫緊の課題でもありますので、そういうところでは、丁寧に、子どもたちにわかりやすい形で書かれているというよさがありました。

小林委員長 いろんな角度からご意見をいただきました。感想もいただきました。

何かほかにございますか。それらを総合的に見て、いかがですか。

大山委員 では、私の方から発言させていただきます。

東京書籍は、学習課題が毎時間、明確に設定されていて、課題解決のための活動もわかりやすく書かれております。子どもは見通しを持ちやすく、意欲的に学習に取り組むことができまして、授業数は少ないですけれども、先生方が確実に押さえるべき内容を指導することができるものと考えます。

また、課題に対して、自分の生活体験や習得した学習内容をもとにして、考えて書く活動が適切に設定されている。それにより、思考力、判断力、表現力が高められます。学習を振り返るページが設定されていることにより、学習内容の定着と日常生活に生かす実践力の育成につながると考えられます。

これらの特徴を持ち合わせました東京書籍は、主体的に子どもが学習に取り組む態度を育み、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てるのに適した教科書であると考えます。

小林委員長 今、大山委員の方から皆さんの意見を大体まとめて、やはりまとめた段階では、東京書籍がという意見が出ました。ご意見はございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 それでは、ありませんので、保健については、東京書籍の「新編 新しい保健」を採択することよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 異議がございませんので、保健については、東京書籍の「新編 新しい保健」を採択することにいたします。

以上で個々の種目の採択は終わりましたが、全体についてご意見がございましたら、お願いいたします。

田中委員 本当にたくさんの教科書を私たちも見させていただいて、大変勉強させていただきました。その中で、やはりどこの教科書も本当にきちんといろんな工夫をされて、子どもたちに伝えようとする様子がうかがえました。この中で1者を選ばなければいけないというのがすごく大変だったのですが、検討委員会の皆様にも大変ご苦労いただいたと思います。本当にありがとうございます。

その中で、やはり教科書をこれだけ一生懸命選択させていただきましたので、先生方にもぜひこれを生かして、学校活動で活用していただけたらなと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

小林委員長 期待を込めてのご意見がございました。よろしくをお願いいたします。

そのほかいかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 ご意見等ございませんので、これより採決を行います。

議案第55号、相模原市立小学校で平成27年度に使用する教科用図書の採択については、各種目ごとに採択いたしました、国語は光村図書の「国語」、書写は東京書籍の「新編 新しい書写」、社会は教育出版の「小学社会」、地図は帝国書院の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」、算数は東京書籍の「新編 新しい算数」、理科は啓林館の「わくわく理科」、生活は啓林館の「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」「せいかつたんけんブック」、音楽は教育出版の「小学音楽 音楽のおくりもの」、図画工作は開隆堂出版の「図画工作」、家庭は開隆堂出版の「小学校 わたしたちの家庭科」、保健は東京書籍の「新編 新しい保健」、以上のとおり決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、議案第55号は種目ごとの採択のとおり可決いたしました。

相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書の採択について

小林委員長 次に、日程3、議案第56号、相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書の採択についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

土肥学校教育部長 議案第56号、相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書の採択について、ご説明申し上げます。

相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書のうち、学校教育法附則第9条の規定により、教科用図書として使用する図書について、相模原市教科用図書採択検討委員会を設置し、必要な事項の調査検討を行いました。

その結果に基づき、相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書を採択いただきたく、提案するものでございます。

よろしくご検討くださいますよう、お願い申し上げます。

具体的なことにつきまして、学校教育課長から説明をさせていただきます。

西山学校教育課長 相模原市立小学校及び中学校の特別支援学級では、先ほど議案第54号・55号で採択いただいた教科用図書以外に、学校教育法附則第9条の規定により、使用する教科用図書として、次の3点を提案させていただきます。

別紙をご覧いただきたいと存じます。

1点目といたしましては、本市の小・中学校において、平成27年度に使用する教科用図書のうち、本人の学年よりも下の学年の教科用図書でございます。

2点目といたしましては、文部科学省著作特別支援学校用教科用図書でございます。

詳細につきましては、関係資料1をご覧いただきたいと存じます。

視覚障害者用教科用図書が1ページから、次に、聴覚障害者用教科用図書が20ページから、次に、知的障害者用教科用図書が22ページから記載されているものでございます。

恐れ入りますが、もう一度、別紙をご覧いただきたいと存じます。

3点目といたしましては、拡大教科用図書等を含む一般図書でございます。

これら、以上3種類を採択くださいますよう、提案申し上げます。

次に、関係資料2をご覧いただきたいと存じます。

3点目に申しあげました拡大教科用図書等を含む一般図書につきましては、今年度、新規に18点を加え、総数は368点でございます。

新規 18 点につきましては、担当指導主事から説明をさせていただきます。

飛矢崎学校教育課指導主事 新規に選考した 18 冊の図書について、ご説明申し上げます。

はじめに、国語・書写で選考した図書でございます。

1 冊目は、「じゆうなことばであいうえお」でございます。50 音に対応した珠玉の言葉の数々と、感性を豊かにするイラストが見開きでセットになっております。また、平仮名をなぞることで、指先を動かすことが苦手な児童も関心を持てるよう、工夫されております。

2 冊目は、「おいもをどうぞ！」でございます。表情豊かな動物たちが次々に登場し、お芋のおすそ分けをしていく物語の中で、動物たちがやりとりを繰り返すため、話す力、会話する力を無理なく引き出せる内容となっております。

3 冊目は、「未来にむかう心が育つおはなし」でございます。未来に向かって、前向きな気持ちになれる様々な長さの作品が掲載されており、児童・生徒の実態に応じて読み聞かせ、音読や読解等で取り上げられる内容となっております。

4 冊目は、「子どもの字がうまくなる練習ノート」でございます。学力の基礎となる平仮名、片仮名、数字、漢字を書き込み式でじっくり練習できるようになっております。

5 冊目は、「レインボーことば絵じてん」でございます。身近な言葉がオールカラーの絵つきで紹介されており、楽しみながら語彙を増やせるように工夫されております。また、この図書は、英単語の知識を得ることもできることから、英語としても使用できるように選考いたしました。

次に、生活・社会で選考した「見て、学んで、力がつく！こども日本地図」でございます。都道府県ごとの名物・名所をイラストと写真で理解できるイラスト地図、各地方の特徴をまとめた地方別地図、そして見やすい行政地図の 3 種類の地図で、日本を楽しく理解できる内容となっております。

次に、算数・数学で選考した図書でございます。

1 冊目は、「ひとりだちするための算数・数学」でございます。児童・生徒が生活していく上で必要な、「重さと量、長さ」「図形、表とグラフ」「時間、暦」「金銭」などがイラストを使ってイメージしやすく掲載されております。

2 冊目は、「スタートでつまずかない中学数学計算」でございます。単元のはじめに問題の解き方が提示され、解く際のポイントが理解しやすい構成となっております。また、小学校の復習内容も含まれており、生徒の理解を確認しながら、次の学習につながる内容

になっております。

次に、生活・理科で選考した図書でございます。

1冊目は、「飼育・栽培 学研の図鑑」でございます。昆虫、動物、水の生き物、植物など、生き物の育て方が写真やイラストでわかりやすく説明されております。ランドセルや学生かばん、机の中に入れやすいB6サイズの装丁になっております。

2冊目は、「なぜ?ど~して?図鑑」でございます。生活の中での疑問が「いきもの」「からだ」「しぜん」「のりもの」「かがく」の5つのテーマごとに、写真とイラストを用い、わかりやすく解説されております。

次に、音楽で選考した図書でございます。

1冊目は、「うたえほん」でございます。歌の内容をイメージしやすい絵と楽譜がついており、音楽と歌うことへの意欲を高める内容となっております。

2冊目は、「CD付きたのしい手あそびうた」でございます。楽しい手遊び歌を無理なく覚えられるように、振りつけのイラスト、メロディー譜が工夫されております。

次に、図画工作・美術で選考した「作ってみよう リサイクル工作68」でございます。ペットボトルや牛乳パック、段ボールなど、身近にある素材を取り上げ、児童・生徒が1人で取り組める作業工程が掲載されております。また、製作後に遊んだり、飾ったりして活用し、鑑賞まで発展させることもできる内容となっております。

次に、家庭科、技術・家庭で選考した「子どもとマスターする49の生活技術イラスト版手のしごと」でございます。雑巾の絞り方、ひも結び、鉛筆の削り方、のこぎりの使い方など、生活の中で必要な技術がわかりやすい絵や写真で説明されております。この図書は、生活・社会としても使用できるように選考いたしました。

次に、保健体育で選考した「自立生活ハンドブック4 からだ!!げんき!?!」でございます。健康管理について、わかりやすい絵と図が掲載されており、成長や病気に対する基本的な知識を身につけられる内容となっております。

最後に、英語で選考した図書でございます。

1冊目は、「CD付き英語のうたカード」でございます。CDを使用することで、正しい英語の発音、言葉のニュアンスを身につけられ、また、歌を通じて、曜日や数字などを覚えることができる内容となっております。

2冊目は、「CD付き英語カード たべもの編」でございます。児童・生徒が知っている身近な食べ物の絵や英語が多く採用されております。絵も大きく見やすいため、グルー

ブ学習や一斉授業にも活用できるものとなっております。

3冊目は、「ALL about the ABC's 遊んで学ぶアルファベット」でございます。CDを使用して、正しいアルファベットの発音を聴くことができ、また、児童・生徒の興味を引く塗り絵や点結びも掲載されております。

よろしくご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

小林委員長 説明が終わりました。

前にもこの図書は検討しておりますが、もう少し時間をとりまして、検討してください。

福田委員 選考過程について、若干ご説明いただけるとありがたいのですけれども。

飛矢崎学校教育課指導主事 まず、毎年、前年度までの一般図書一覧に新たな図書を加えて採択しておりますので、前年度までの一般図書一覧のうち、文部科学省の調査によって、供給予定がないものや改訂予定本などをまずは除きまして、それを補充する意味を含めまして、新たな図書を検討いたします。それにつきましては、調査員という、小学校から2名、中学校から2名の学校の教職員に調査をしてもらいまして、一般の書店に出向きまして、これらの図書を選んでもらう形になります。その後調査員が集まりまして、これが新規の図書として、適切なものであるかというのを審議した上で、このような形で、ここに挙げさせていただきました。

田中委員 確認になるのですが、先ほど挙げていただいた27年度に使用される教科用図書のうち、本人の学年よりも下の学年の教科用図書と、文部科学省著作特別支援学校用教科用図書と、それから、今ご紹介いただいた拡大教科用図書等を含む一般図書とありますが、この中からその子に適したものを、例えば国語だったら国語で1冊というか、そういう感じと考えるよろしいでしょうか。

飛矢崎学校教育課指導主事 今、田中委員が言われましたように、各個人の児童・生徒が各教科で指定された本、指定された冊数の本に合わせまして、この3種類の中から1冊を選ぶ形となっております。

田中委員 もう1つよろしいですか。今のことに関してなのですかけれども、それに関しては、担任の先生が選ばれるのでしょうか。また、保護者やご本人の意向というのは入ってくるのでしょうか。

飛矢崎学校教育課指導主事 学級担任が児童・生徒の実態を把握しますが、保護者と相談の上、もちろん本人の興味、関心なども取り入れまして、個々の指導目標を達成するものを選んでおります。

小林委員長 ほかにご意見、ご質問はありませんか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 ありませんので、これより採決を行います。

議案第56号、相模原市立小学校及び中学校で平成27年度に使用する特別支援教育関係教科用図書の採択についてを、原案どおり決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、議案第56号は可決されました。

ここで休憩をとります。午後4時15分から再開いたします。よろしくお願いいたします。

(休憩・16:02～16:15)

小林委員長 それでは、再開いたします。会議を続けます。

#### 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

小林委員長 日程4、議案第57号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

小野澤教育局長 議案第57号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、ご説明申し上げます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定により、教育委員会では、毎年、その教育行政事務の管理執行状況につきまして点検・評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに公表することとなっております。

本議案は、同法の趣旨に則り、平成25年度の本市教育委員会の実施事業等を対象にいたしました点検・評価結果報告書について提案するものでございます。

本報告書は、実施方法の検討、対象事業に関する視察、事業ヒアリング等、教育委員の皆様方にご協議いただきながらまとめたものでございますが、ここで改めまして、教育委員会定例会の議案としてご確認いただくものでございます。

なお、本報告書につきましては、教育委員会で決定の後、市議会9月定例会への提出を予定しております。

報告書の詳細につきましては、教育総務室長よりご説明いたします。

鈴木教育総務室長 それでは、お手元の平成26年度相模原市教育委員会点検・評価結果

報告書に基づき、ご説明させていただきます。

報告書 1 ページをご覧ください。

「はじめに～平成 25 年度「さがみはら教育」の主な動向」では、教育長からのメッセージとして、平成 25 年度の本市教育行政の主な動向をまとめております。

主な内容といたしましては、支援が必要な小・中学生に対して、きめ細かな支援を行う体制を充実させるために、支援教育支援員を全校に配置したこと。「いじめ防止対策推進法」が施行されたことを受け、「相模原市いじめの防止等に関する条例」と同様の基本理念を掲げた「相模原市いじめ防止基本方針」と「学校いじめ防止基本方針」を策定したこと。相模原市教育振興計画の施策分野別計画である「さがみはら未来をひらく学びプラン後期実施計画」と「新・相模原市支援教育推進プラン中期改定版」をそれぞれ策定したこと。教育環境の整備において、市立小・中学校屋内運動場改修事業において、災害時の避難所となる屋内運動場を 10 棟改修したこと。生涯学習分野において、公民館機能等の充実を図り、多様化する市民の学習ニーズに応えるため、小山公民館の大規模改修を行ったことなどでございます。

続きまして、3 ページをご覧ください。

この点検・評価は、相模原市教育振興計画の進行管理の役割を担うものであることから、基本理念をはじめ、目指す人間像、基本目標、基本方針など、教育振興計画の概要を掲載しております。

続きまして、4 ページをご覧ください。

ここでは、点検・評価を実施する意義や根拠法令、報告書の構成について掲載しております。

続きまして、5 ページをご覧ください。

ここでは、相模原市教育振興計画の施策体系に基づき、学校教育、生涯学習・社会教育、家庭・地域の教育と 3 つの基本目標ごとに昨年度の点検・評価を受けての課題と取り組みの方向性、平成 25 年度の具体的な取り組み、事業を実施したことによる効果と今後の取り組みについて点検・評価結果をまとめており、本報告書の主たる箇所になります。

5 ページから 6 ページの学校教育につきましては、人権・児童生徒指導班を新設し、いじめ相談ダイヤルを開設するとともに、学校巡回訪問を通して、学校の抱える課題への支援体制を強化したこと。また、6 ページになりますが、「さがみ風っ子教師塾あり方検討会」を設置し、現職教員育成も含めた今後のあり方についての検討を進め、2 コース併設

の方向性を確立したこと。成果指標の観点からは、「学校を楽しんでいる児童・生徒の割合」が増加に転じたため、今後も義務教育9年間にわたる学校生活や学びの連続性を大切にしたい学校づくり等の体制整備について実態把握を行いながら、引き続き取り組みを行うことなどがございます。

7ページの生涯学習・社会教育につきましては、市民大学について、過去のアンケートから市民ニーズを的確に把握し、講座内容の充実を図ったこと。スポーツについては、国内トップレベルの大会として、ジャパンオープン2013（競泳）を誘致し、「観るスポーツ」を推進するとともに、スポーツによる市民の一体感を醸成したこと。文化財につきましては、市民協働の促進を目指して、文化財関連団体を支援し、公開活用や文化財保護の普及・啓発を推進すること。また、成果指標の観点からは、指標の数値が減少に転じているものを中心に、今後もさらなる学習機会の提供や支援に取り組んでいくことなどがございます。

8ページの家庭・地域の教育につきましては、家庭教育力の向上を目指して、星が丘公民館及び中央公民館において、公民館サークル、館区内の幼稚園・保育園、小学校、PTA等、関係機関と連携した家庭教育支援講座を実施したこと。また、学校と地域住民等を含む地域社会が協働・連携して教育活動を充実させ、活力ある地域社会づくりを進めるため、学校と地域の協働を推進するためのコーディネーターを小学校3校、中学校3校の計6校に配置したこと。さらに、文化財を学び親しむ機会を提供する目的で、積極的な文化財の公開や普及事業を推進したこと。成果指標の観点からは、「子どもとのコミュニケーションが図られていると感じる保護者の割合」は減少に転じており、今後は、参加対象者の実態や意見を踏まえながら、家庭教育啓発事業を実施していくことなどがございます。

9ページをご覧ください。

ここでは、点検・評価を行うに当たって、学識経験者3名の方々との意見交換会を開催した際にいただきました主な意見を掲載しております。

10ページをご覧ください。

ここでは、12ページ以降の成果指標と個別事業ごとの点検・評価の結果の前段として、個別事業の抽出の基準や評価の視点についてまとめております。

12ページをご覧ください。

ここでは、基本目標から派生する基本方針ごとに、具体的な成果指標の数値の推移とそれに関連する個別事業について列挙するとともに、14ページ以降からは、個別事業の点

検・評価結果を掲載しております。個別事業の点検・評価につきましては、事業名と予算額、当該事業の目的、実施内容、成果・効果、評価・課題・方向性を記載しております。

若干飛びますが、28ページをご覧ください。

28ページでは、相模原市教育振興計画の主な施策と事業の全てについて、平成25年度の取り組み状況や実績を掲載しております。

続きまして、36ページをご覧ください。

ここでは、平成25年度の教育委員の活動についてまとめております。

まず、「1 教育委員会の会議の状況」でございますが、平成25年度は、定例会・臨時会合わせて17回開催し、84件の議案について審議いただきました。

続きまして、37ページの「2 教育委員の活動状況」では、教育委員の視察や式典等の主な活動状況についてまとめております。

38ページから41ページの「3 平成25年度 教育委員の活動後記」では、教育委員の皆様方の思いや問題意識などをまとめております。

42ページ以降には、点検・評価に係る実施要領や本報告書作成経過、平成25年度の教育委員会議案一覧等の参考資料を掲載しております。

以上で、議案第57号の説明を終わらせていただきます。よろしくご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

小林委員長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

田中委員 9ページの学識経験を有する者からのご意見ということで、すみません、この日、私は私用で出席できなくて、大変申し訳なかったと思っています。学識経験者からの主な意見ということで、いろいろ挙げられている中で、今後、やはり現場の意見というか、そういうところを大事にしながら、方針を定めていくことが大切ではないかというところもありますので、これをまた今後の活動に生かしていただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

小林委員長 そのほかございますか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 ありませんので、これより採決を行います。

議案第57号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価についてを、原案どおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長 ご異議ございませんので、議案第57号は可決されました。

#### いじめ防止対策に係る取組について

小林委員長 それでは、事務局から報告事項があるようです。

報告事項1について、学校教育課からお願いいたします。

土肥学校教育部長 いじめ防止対策に係る1学期間の取組みについて、ご報告を申し上げます。

1学期間の取組みについてでございますが、市といたしましては、相模原市いじめ防止基本方針に沿った取組みを行いますとともに、各学校においても、学校の実情に応じた学校いじめ防止基本方針に沿ったいじめ防止の取組みを実施しております。

それでは、詳細につきまして、担当の方からご説明をさせていただきます。

長嶋学校教育部参事 それでは、恐れ入りますが、資料のいじめ防止対策に係る取組についてをご覧いただきたいと存じます。

はじめに、教育委員会の取組みについてご説明いたします。

5月のいじめ防止月間につきましては、5月1日号の広報さがみはらにおいて、5月のいじめ防止月間のキャッチフレーズ「あいさつ・笑顔のあふれるさがみはら」やいじめ相談ダイヤルの周知を図るとともに、ホームページにおいて教育長メッセージを発出するなど、啓発活動を行いました。また、PTA連絡協議会や自治会連合会、民生・児童委員協議会に出向き、いじめ防止の取組みについて協力を依頼するとともに、このポスター、ご覧のいじめ防止啓発ポスターを各協議会等の連名で作成いたしまして、市内コンビニエンスストアを中心に、約500カ所に掲示を依頼したところでございます。さらに、保護者向けリーフレットを作成し、学校を通じて全家庭に配付いたしましたところでございます。

相模原市いじめ防止基本方針に係る組織体制の整備につきましては、重大事態が発生した際の子どものいじめに関する調査委員会委員の委嘱を5月上旬に行いました。また、7月1日には、子どものいじめに関する審議会を開催いたしましたところでございます。審議会でございますが、本市のいじめの防止に関する条例及びいじめ防止基本方針につきまして、事務局から説明させていただいた後、本市のいじめの現状や取組みについて審議をしていただきました。委員からは、学校はいじめが発生したことに委縮することなく、いじめを把握したら、学校全体で家庭と協力して解決を図ることが重要であるということや、子

ども同士のいじめの防止の取り組みが重要であること、学校だけが責任を負うのではなく、保護者や地域も一体となって、子どもたちをどう育てていくのかを議論する機会が必要であることなどの意見が出されたところでございます。

次に、各学校の取り組みについて報告いたします。

各学校では、保護者や地域に向けて、学校いじめ防止基本方針をホームページや学校便りを通じて公表するとともに、5月のいじめ防止月間に合わせて、教職員や児童・生徒が中心となった挨拶運動を展開し、子どもたちが安心して生活できる環境づくりに取り組んでおります。

また、神奈川県全体の取り組みでございます、児童生徒指導強化週間を中心に、子どもたちの自主的な活動の場として、小学校においては、縦割り班による様々な取り組みを通じた自己有用感の育成や、児童会が中心となった挨拶キャンペーン活動、中学校におきましては、学年生徒会による挨拶キャンペーンの実施や、生徒会主催の朝清掃、それから、相手を尊重し、思いやりのある行動をしますなどの私たちの宣言の策定などの取り組みを行っております。

さらに、各学校では、いじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの実態把握に努めております。なお、学校教育課では、各学校で実施しているアンケート調査の方法について把握し、各アンケート調査の実施方法や資料の取り扱いについて、今後の学校の取り組みに生かせるよう、資料作成を進めているところでございます。

次に、1学期間の学校教育課におけるいじめへの対応状況でございますが、いじめ相談ダイヤルでは、33件の相談を受理しております。中には、いじめがきっかけで学校に行きづらくなっているなどの相談ケースもございまして、繰り返し当該の保護者と相談をしながら、学校や関係機関との連携を図って対応している事案もございます。件数は、昨年より若干減少しておりますが、引き続き相談ダイヤルの周知に努めてまいりたいと思っております。

また、相談ダイヤル以外に、学校や保護者から14件のいじめに係る助言、相談の依頼がございました。全ての事案で早期に学校とともに対応を図っているところでございます。

なお、各学校における1学期間のいじめ認知件数につきましては、現在、学校教育課で集計を行っております。その結果の分析につきましては、各学校の2学期の取り組みに生かせるよう、学校にフィードバックしてまいりたいと思っております。

次に、人権・児童生徒指導班の1学期の学校巡回訪問について報告いたします。6月末

までに延べ232回の巡回訪問を実施いたしました。内訳は記載のとおりでございます。  
なお、緊急対応1件とございますのは、不審者の発生に伴い、周辺パトロールを実施した  
ものでございます。

今後、1学期の巡回訪問で、いわゆるいじめの発生しやすい状況にある学校や学年、学  
級等については、2学期に重点的に巡回したり、夏休み中に関係機関等と連携したサポ  
ート会議を開催し、具体的な対応策を検討したりするなどの取り組みを実施してまいり  
ます。

各学校のいじめ防止基本方針については、既にほとんどの学校のホームページに公表さ  
れております。残りの学校につきましても、学校便り等を通じて、既に家庭や地域に周知  
を図っているところでございますが、さらに、今後、ホームページにも公表をするよう、  
手続を進めているところでございます。

最後に、夏休みの取り組みについてご報告させていただきます。恐れ入りますが、次の  
ページの資料をご覧ください。

夏休み期間中に中学生が中心となって、小学生に対する学習支援や触れ合い活動を通し  
て、中学生の自己有用感や規範意識の醸成を図るために、警察と連携して、「絆プロジェ  
クト」の取り組みを数年前から実施しております。資料は昨年度の取り組みの様子でござ  
いいますが、今年度も田名中学校で7月28日から5日間、上溝南中学校で8月4日から5  
日間、それぞれ地域の児童クラブにボランティアの生徒が出向いて、活動を行ってまい  
ります。

また、昨年同様、スポーツ課との連携で、夏休み期間中のSC相模原のチケットの裏面  
に、いじめ相談ダイヤルの電話番号を掲載していただく取り組みを行ってまいります。

以上、いじめ防止対策に係る取組についてご報告させていただきました。よろしくお願  
いいたします。

小林委員長 説明が終わりました。これから質疑等がございましたら、お願いしたいと思  
います。

福田委員 ちょっといじめのところの件ですけれども、その他のところで、残り2校は調  
整中ですというのですが、この件について補足をお願い致します。

長嶋学校教育部参事 ちょっと説明が足りなくて、申し訳なかったと思います。

この109校中107校は既に公表とありますけれども、これはいわゆるホームページ  
に載せているという意味でございまして、実際には、学校便り、あるいは保護者への通知  
ということで、地域には公表しているところでございます。残りの2校についても技術的

なこととか、いろいろあるようでございますが、最終的には全校がホームページに載せられるようにということで、今、準備をしているというところでございます。

田中委員 いじめがきっかけで学校に行きづらくなっているケースの相談がというところがありました。ちょっとデリケートな問題なので、対応が難しいかなとは思いますが、やっぱりここが正念場というか、いじめに関しては、あまり、触れずにではなくや、デリケートな部分だからあまり刺激をしないようにということではなくて、私はいいと思うのですね。本人たちの間で起こっていることなので、できれば本人たちに解決できる場を与えていただければと思います。もちろん親も一緒になって考えなくてはいけないのですが、下手に親が出ると、まとまるものもまとまらなくなってしまう場合も結構あると思うのです。一部分しか見えていないというところで。うまく学校の中で解決できるような、そして、それを乗り越えて学校に来られるように、ぜひ、中学校、小学校にいる間にしてあげていただきたいと思います。それができないと、これから例えば、また高等学校の方とかに行ったときにも、同じような問題に当たったときに、やはり乗り越えられないのではないかなと思います。

問題が小さいうちに解決するすべや、周りに助けてくれる人がいるということ子どもたち当人にも知ってもらいたいですし、あとは、いじめてしまった側にも、ちゃんと反省をして、これからはそうではないというところを身につけて、義務教育を終えてほしいなと思っていますので、そこを本当に大変な問題だとは思っていますし、対応はいろいろあって、本当に現場の先生方や関係機関の皆さんには大変かなと思うのですが、ぜひその対応を、もう火種が小さいうちに対応していただけたらなと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。そのために、保護者の方も一緒になって、出しゃばらず、見守る体制で一生懸命取り組めるようにしていけたらなと思いますので、ぜひ、PTA関係の方にも働きかけていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小林委員長 意見ということでよろしいですか。

田中委員 はい。

小林委員長 一番最初のページの1学期間の取組について、大きな丸がついている5月のいじめ防止月間の取組、ずっと黒ポチが続いている一番下です。公民館、民生委員、自治会連合会の各会議でのいじめ防止の協力依頼、どういう依頼を具体的になさって、どういう力をいただきたいのかということ。

それから、次のページ、いじめ件数が出ておりますね。38から、今年度、33に減っ

ているという状況が出ています。いいことだと思いますが、件数の減少も極めて大事ですが、いじめの質についても、ぜひ分析をしていただきたいなと思います。これはお願いです。

それから、3番目、学校巡回訪問、大変な回数をご努力いただいてやっております。この訪問をしたために、学校の反応だとか、232回出向いているようですが、もし、成果と手ごたえというのですか、その辺も何かの折にまたお話しいただければなと思います。今でなくても結構でございますけれども。

以上です。

福田委員 今、委員長からのお話にもございましたけれども、ネット等の今、話題になっているその質というか、いじめの発生から経過等について記録を残し、共有していけるような、そういうものをぜひ作成していただきたいと思います。

長嶋学校教育部参事 最初の委員長からのご質問で、公民館、民生委員、自治会連合会、こういった会議の協力依頼ですけれども、一般的に、いじめの今回の基本方針ができたということ、それから、この時期が5月でしたので、5月の月間に対する協力依頼、挨拶運動なんかを行いますので、地域や、あるいは保護者の方も協力してほしい、そういったことを各会議に出向いて、お願いをしたというところでございます。

小林委員長 具体的にこういう行動をしてほしいとか、そういうレベルではないですね、まだ。

小泉学校教育課担当課長 今回の5月のいじめ防止月間の取り組みにつきましては、実際に「あいさつ・笑顔のあふれるさがみはら」というキャッチフレーズの中、一体となった取り組みとなるよう、お願いしたところでございますが、公民館につきましては、子どもたちのいわゆる居場所の1つとなることから、そこでの見守り活動、あるいは居場所づくりについて、具体的な依頼ではございませんが、意識を持って見守っていただくよう、お願いをしたところでございます。

同様に、民生委員、それから自治会連合会につきましても、やはり地域での5月のいじめ防止月間に係る見守り、あるいは学校との連携について、具体的な動きということではないのですが、やはり連携を図っていただきたいということの依頼をさせていただいたものでございます。

大山委員 先ほど委員長が言われた、いじめの質の問題なのですね。これは、支援を必要としている環境下で、やっぱりこういったいじめが多いという、文部科学省は多分そのデ

ータを持っていますけれども、いずれそういったことも、区市町村とか、その辺に求めてくるでしょう。それから、その原因が今、問題になっています、子どもの貧困と低所得とか、その辺が背景になっているのか。やっぱり背景を把握すること、それから、その事例がどんな事後処理を受けているか、スクールカウンセラーのアドバイスを受けているとか、その辺の事後報告とか、その辺も含めた経過観察という記録が必要なのではないかなと思います。質ですよ、やはり先ほど言われたように。その辺をちょっと工夫されると、よるしいのではないのでしょうか。

小林委員長 ご意見でよろしいですか。

大山委員 はい。

小林委員長 そのほかございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

小林委員長 それでは、この件はこれでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

小林委員長 次に、教育委員会の主なイベント等についてですが、お手元にあります広報カレンダーに7月下旬から8月中旬までの予定がまとめてありますので、ご覧いただければと思います。もし質問等がありましたら、個別にお願いいたします。

これはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

小林委員長 では、最後に、次回の会議予定日ですが、8月14日木曜日、午後2時30分より教育委員会室で開催する予定でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

小林委員長 それでは、次回の会議は8月14日木曜日、午後2時30分の開催予定といたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、定例会を閉会いたします。大変お力添え、ありがとうございました。

閉 会

午後4時45分 閉会